

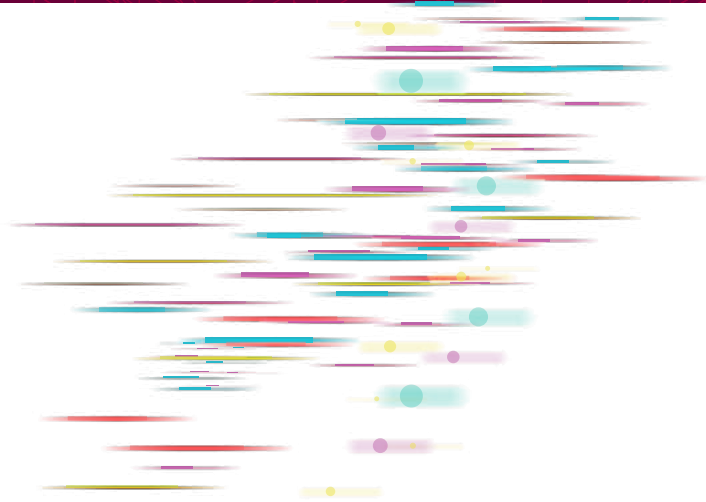


国立大学法人

名古屋工業大学

Nagoya Institute of Technology

概要 2019-2020





学長挨拶

～伝統を礎に、 未来社会をリードする大学へ～

今日、グローバル化、デジタル化、ソーシャル化など未来社会に向けて大きく転換する時代を迎えるなかで、名古屋工業大学は、114年の伝統を礎に、より一層工学系大学としてのポテンシャルを高め、本学が掲げる将来ビジョンに向かって邁進してまいります。

めざす教育 ～工学系教育のフロントランナー～

教育改革の一環として導入した複線的な教育システムである高度工学教育課程と学部・大学院6年一貫の創造工学教育課程は、社会や産業界からの人材像への要望にいち早く的確に応え、将来の工学エリートを育成する仕組みです。そのなかで、学生は各々自分に合ったカリキュラムを選びながら、「学び」の意欲をもち、自立して勉学に取り組んでいます。知識基盤社会をリードするドクター人材の育成強化、社会人の要望に応えるリカレント教育などとともに、社会の変化に柔軟に対応した工学系教育を実践、リードしていくことがフロントランナーの役割と考えます。

めざす研究 ～工学のイノベーションハブ～

国内外の大学・研究機関、産業界、行政、金融界とのネットワークを介して「人」、「知」、「技術」をつなぎ、学術・技術で新しい技術の価値を創造し、世界に発信する拠点を形成する。本学がめざすのは、このような「工学のイノベーションハブ」です。それを駆動する両輪が、国際的共同研究の展開による研究力の強化と産学官金連携による共同研究の一層の充実です。グローバルな共同研究教育ネットワーク、先進的な研究センター、産学官金連携機構を全学体制で結び、工学の総合大学としてのメリットを最大限に活かしながら未来社会 Society5.0を実現するため、イノベーションの創出とグローバルリーダーの育成をめざしてまいります。

めざすキャンパス ～ダイバーシティ・インクルージョン～

海外の大学・研究機関との組織的な連携、海外事務所、留学生同窓会などを活用しながら、優秀な留学生の獲得や日本人学生の海外派遣拠点を開拓しています。また、女性研究者支援体制の充実、女子学生比率の拡大などに取り組み、女性の力を存分に活かして本学の活力をパワーアップさせています。さらに、インターンシッププログラム、学生との共学型社会人教育プログラムを充実させ、企業人材との交流の活性化を推進しています。多様な人々が共生し、互いに能力を高め合うことで大学に活力を生み、新たな価値を醸成、発信する「創発」拠点をめざしてまいります。

社会が大きく変わろうとする今こそ、伝統と実績を揺るぎないものとし、未来を先取りした工学フィールドとして、名古屋工業大学の存在を社会に示す、まさにその時代（とき）です。

本学教職員のみならず、学生、同窓生、企業人、地域の皆様と意識の共有をはかり、大学改革に臨んでまいります。

名古屋工業大学長

鵜飼 裕之

(注1) 平成30年度までは和暦で、2019年(令和元年)度からは西暦(和暦)で表記しています。
(注2) 年度表記について、2019年(平成31年)4月は、便宜上2019年(令和元年)度として記載しています。
(注3) 名称及び数字については、特に注記したものを除き、2019年(令和元年)5月1日現在で記載しています。

CONTENTS

名古屋工業大学憲章、大学の沿革	2
役職員、経営協議会委員、教育研究評議会評議員	3
歴代の校長・学長	4
2019年(令和元年)度学年暦、教員組織	5
組織	6
学部・大学院	8
図書館	11
産学官金連携機構、フロンティア研究院、全学共通支援組織	12
教育推進組織	13
学術推進組織	14
研究人財高度化組織	16
海外拠点、主な教育研究補助金採択状況、プロジェクト研究所	17
学生生活上の施設	18
役員・教職員数	20
学生数	21
2019年(令和元年)度入学状況	23
奨学生数	26
卒業者・修了者数、平成30年度卒業者・修了者の進学状況	27
平成30年度卒業者・修了者の就職状況	28
外国人留学生数	32
学術交流協定締結状況	33
平成30年度科学研究費助成事業、平成30年度知的財産収入、 平成30年度財政状況	34
土地・建物	35
学内配置図、クラブ・サークル	36
アクセスマップ	37

NI Tech Cosmo Village(ナйтеック コスモ ヴィレッジ)

竣 工：平成30年3月第Ⅰ期整備完了(定員88名)
平成30年9月第Ⅱ期整備完了(定員120名)
建築構造：地上3階、軽量鉄骨造
延べ面積：3,803m²

4棟 26ユニット【1ユニットに居室(個室)が8室】からなり、外国人留学生と日本人学生が居住しています。

また、女子学生の入居も可能となっており、まさに本学が推進するダイバーシティ構想に基づいて設置された国際学生寮です。

様々な国から様々な文化を持ち寄り、互いを尊重しあい、高めあう、そうした環境の中でグローバルな視野・思考を持つ学生が育つよう、NI Tech Cosmo Village と名付けられました。





基本使命

名古屋工業大学は、日本の産業中心地を興し育てることを目的とした中部地域初の官立高等教育機関として設立されたことを尊び、常に新たな産業と文化の揺籃として、革新的な学術・技術を創造し、有為な人材を育成し、これからの社会の平和と幸福に貢献することをその基本使命とする。

ものづくり

名古屋工業大学は、構成員の自由な発想に基づく実践的かつ創造的な研究活動を尊ぶとともに地球規模での研究連携を推進し、既存の工学の枠組みにとらわれることなく、工学が本来有する無限の可能性を信じ、新たな価値の創造に挑戦する。

ひとづくり

名古屋工業大学は、自ら発見し、創造し、挑戦し、行動することで、工学を礎に新たな学術・技術を創成し世界を変革することのできる個性豊かで国際性に富んだ先導的な人材の育成に専心する。

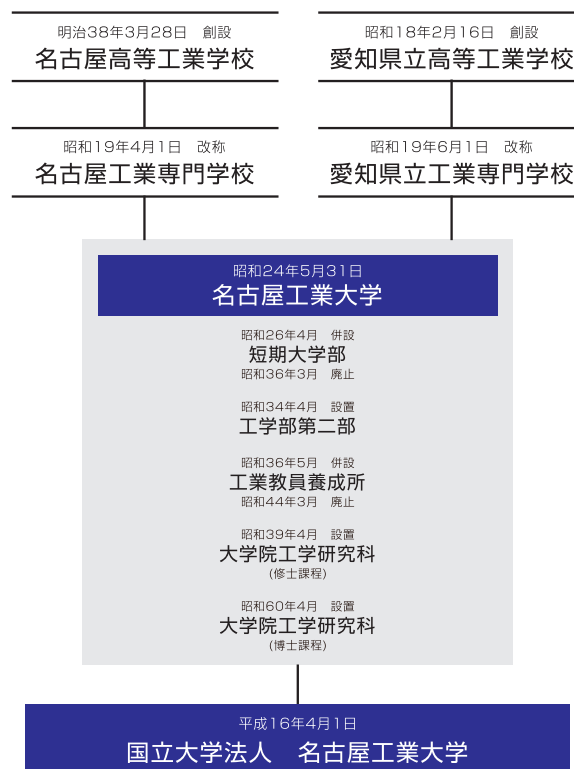
未来づくり

名古屋工業大学は、国民から負託を受けた開かれた大学として地域および国際社会との調和と連携を重視し、ものづくりとひとづくりを通して平和で幸福な未来社会の実現に向けて邁進する。

平成24年1月1日制定



大学の沿革





役職員、経営協議会委員、教育研究評議会評議員

■役職員

学 長	鵜 飼 裕 之
理 事 ・ 副 学 長	木 下 隆 利
理 事 ・ 副 学 長	内 匠 逸
理 事 ・ 事 務 局 長	齊 藤 修
監 事	雑 賀 正 浩
監 事	二 村 友 佳 子

副 学 長	小 畑 誠
副 学 長	江 龍 修
副 学 長	井 門 康 司
副 学 長	犬 塚 信 博
副 学 長	岩 本 雄 二
副 学 長	柿 本 健 一

■経営協議会委員

学内委員

鵜 飼 裕 之	学 長
木 下 隆 利	理 事 ・ 副 学 長
内 匠 逸	理 事 ・ 副 学 長
齊 藤 修	理 事 ・ 事 務 局 長
小 畑 誠	副 学 長
江 龍 修	副 学 長

2019年4月1日現在

(五十音順)

学外委員

伊 藤 正 彦	株式会社デンソー経営役員
掛 布 勇	株式会社大林組副社長執行役員
岸 宏 尚	トヨタ自動車株式会社パワートレインカンパニー President
郡 健二郎	公立大学法人名古屋市立大学理事長・学長
榊 直 樹	学校法人東邦学園理事長、愛知東邦大学学長
阪 口 正 敏	中部電力株式会社特任アドバイザー
堀 龍 之	丸の内綜合法律事務所代表弁護士
森 岡 仙 太	愛知県副知事
柳 瀬 英 喜	豊田通商株式会社副社長

■教育研究評議会評議員

学 長	鵜 飼 裕 之
理 事 ・ 副 学 長	木 下 隆 利
理 事 ・ 副 学 長	内 匠 逸
理 事 ・ 事 務 局 長	齊 藤 修
副 学 長	小 畑 誠
副 学 長	江 龍 修
副 学 長	井 門 康 司
副 学 長	犬 塚 信 博
副 学 長	岩 本 雄 二
副 学 長	柿 本 健 一
図 書 館 長	内 匠 逸
お も ひ 領 域 長	森 田 良 文
し く み 領 域 長	石 橋 豊

つ く り 領 域 長	河 邊 伸 二
な が れ 領 域 長	瀬 口 昌 久
生 命 ・ 応 用 化 学 教 育 類 長	大 北 雅 一
物 理 工 学 教 育 類 長	尾 形 修 司
電 気 ・ 機 械 工 学 教 育 類 長	長 谷 川 豊
情 報 工 学 教 育 類 長	本 谷 秀 堅
社 会 工 学 教 育 類 長	秀 島 栄 三
創 造 工 学 教 育 類 長	猪 股 克 弘
基 礎 教 育 類 長	山 岸 正 和
保 健 セ ン タ ー 長	中 野 功
先 進 セ ラ ミ ッ ク ス 研 究 セ ン タ ー 長	安 達 信 泰
サイバーセキュリティセンター長	齋 藤 彰 一

■事務局

事 務 局 長	齊 藤 修
事 務 局 次 長	磯 部 剛 利
事 務 局 次 長	高 木 雅 弘
事 務 局 次 長	早 坂 勇 二
学 務 課 長	清 水 久 己
学 生 生 活 課 長	水 野 靖 志
入 試 課 長	伊 藤 幹 雄
研 究 支 援 課 長	野 田 好 人
学 術 情 報 課 長	棚 橋 是 之
総 務 課 長	鎌 澤 幸 彦
企 画 広 報 課 長	早 坂 勇 二

人 事 課 長	箕 浦 寿 樹
財 務 課 長	廣 岡 信 行
経 理 課 長	尾 崎 澄 人
施 設 企 画 課 長	鹿 嶋 伸 彦
事 務 局 付 け 課 長	福 本 英 基
技 術 部 長	小 畑 誠
技 術 部 次 長	安 形 保 則
装 置 開 発 課 長	安 形 保 則
情 報 解 析 技 術 課 長	服 部 博 文
計 測 分 析 課 長	日 比 野 寿
技 術 部 付 け 課 長	玉 岡 悟 司

歴代の校長・学長

区 分	氏 名	在 職 期 間
名古屋高等工業学校長	土 井 助 三 郎	明治38年 4月 ~ 大正 7年 4月
	武 田 五 一	大正 7年 4月 ~ 大正 9年 9月
	森 彦 三	大正 9年 9月 ~ 昭和 8年 9月
	土 屋 純 一	昭和 8年 9月 ~ 昭和14年 9月
名古屋工業専門学校長	平 田 徳 太 郎	昭和14年 9月 ~ 昭和20年11月
	結 城 朝 恭	昭和20年11月 ~ 昭和23年 8月
	清 水 勤 二	昭和23年 8月 ~ 昭和26年 3月
愛知県立高等工業学校長	(事務取扱) 平 田 徳 太 郎	昭和18年 2月 ~ 昭和18年 9月
愛知県立工業専門学校長	造 賀 常 一	昭和18年 9月 ~ 昭和26年 3月
名古屋工業大学長	清 水 勤 二	昭和24年 5月 ~ 昭和34年 5月
	佐 藤 知 雄	昭和34年 5月 ~ 昭和44年 2月
	(事務取扱) 城 戸 久	昭和44年 2月 ~ 昭和44年 9月
	(事務取扱) 村 井 忠 一	昭和44年10月 ~ 昭和44年11月
	(事務取扱) 山 田 保	昭和44年11月 ~ 昭和45年 1月
	(事務取扱) 森 島 宗 太 郎	昭和45年 1月 ~ 昭和45年10月
	森 島 宗 太 郎	昭和45年11月 ~ 昭和47年10月
	佐 野 幸 吉	昭和47年11月 ~ 昭和53年10月
	武 藤 三 郎	昭和53年11月 ~ 昭和59年10月
	太 田 正 光	昭和59年11月 ~ 平成 2年10月
	吉 田 彌 智	平成 2年11月 ~ 平成 8年10月
	岡 島 達 雄	平成 8年11月 ~ 平成12年10月
	柳 田 博 明	平成12年11月 ~ 平成16年 1月
	松 井 信 行	平成16年 1月 ~ 平成22年 3月
	高 橋 実	平成22年 4月 ~ 平成26年 3月
	鵜 飼 裕 之	平成26年 4月 ~

2019年（令和元年）度学年暦

前期（4月1日～9月30日）

学年始め	4月 1日
入学式	4月 6日
前期授業開始	4月 8日
夏季休業	8月9日～9月30日

後期（10月1日～3月31日）

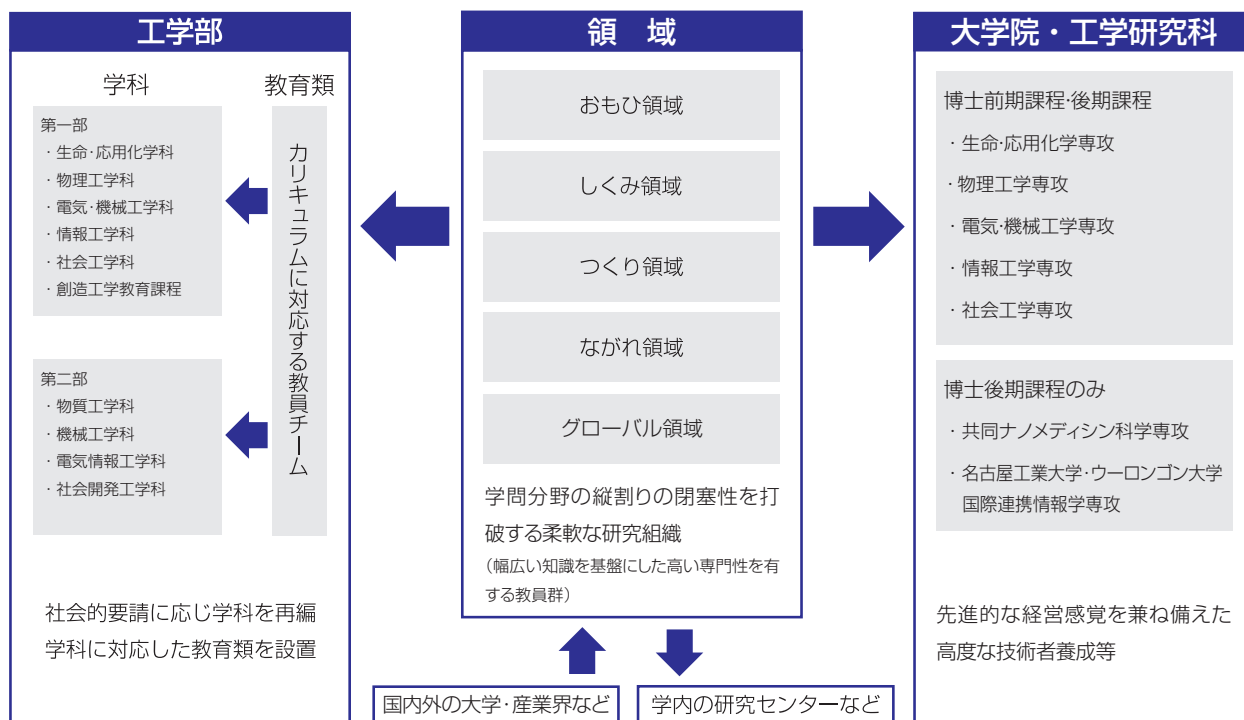
後期授業開始	10月 1日
ホームカミングデー	10月26日
名古屋工業大学記念日	11月 1日
工大祭（本祭典）	11月23日～24日
冬季休業	12月24日～1月5日
春季休業	2月21日～3月31日
学位記授与式	3月26日
学年終わり	3月31日

教員組織

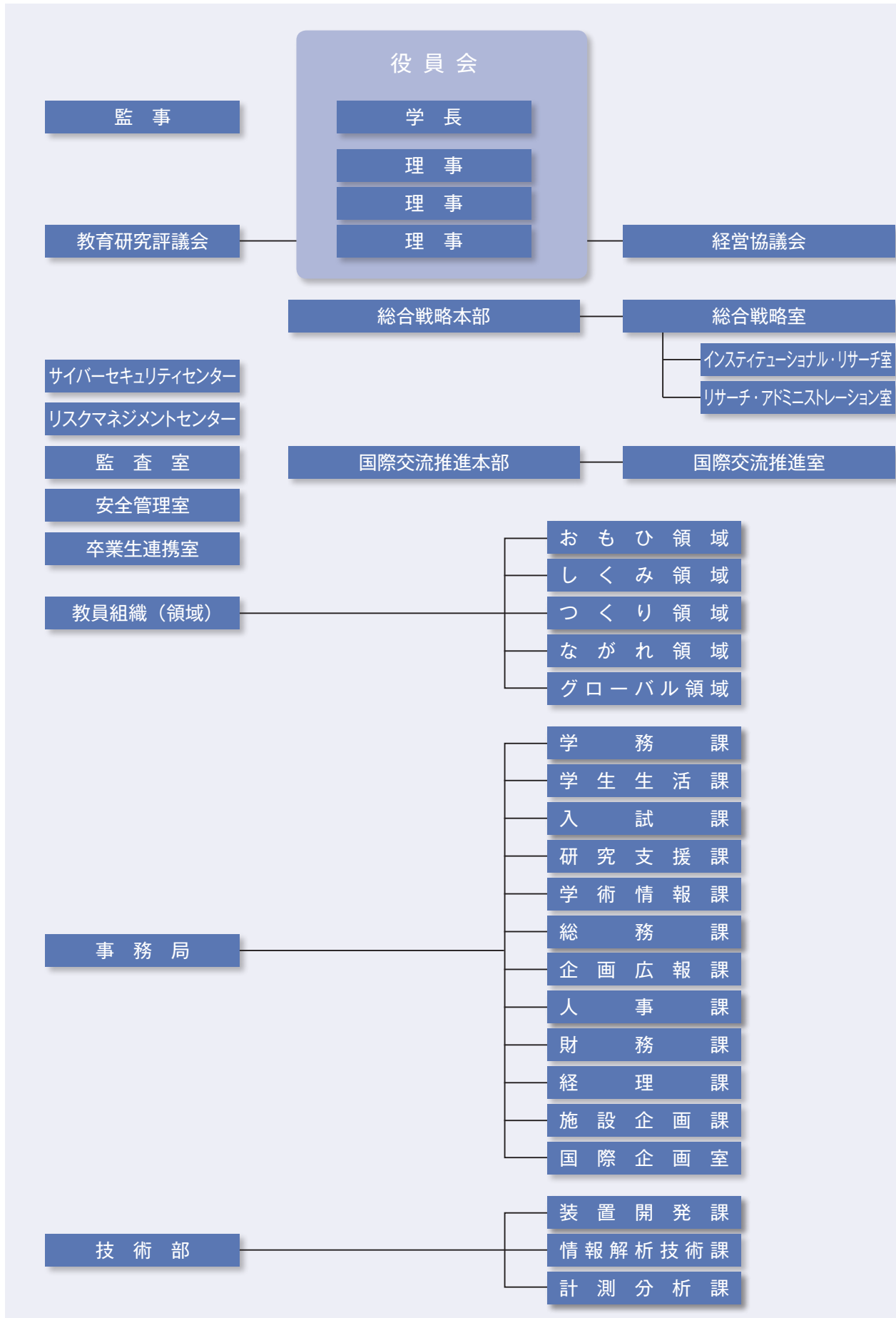
教員組織として「領域」を設置

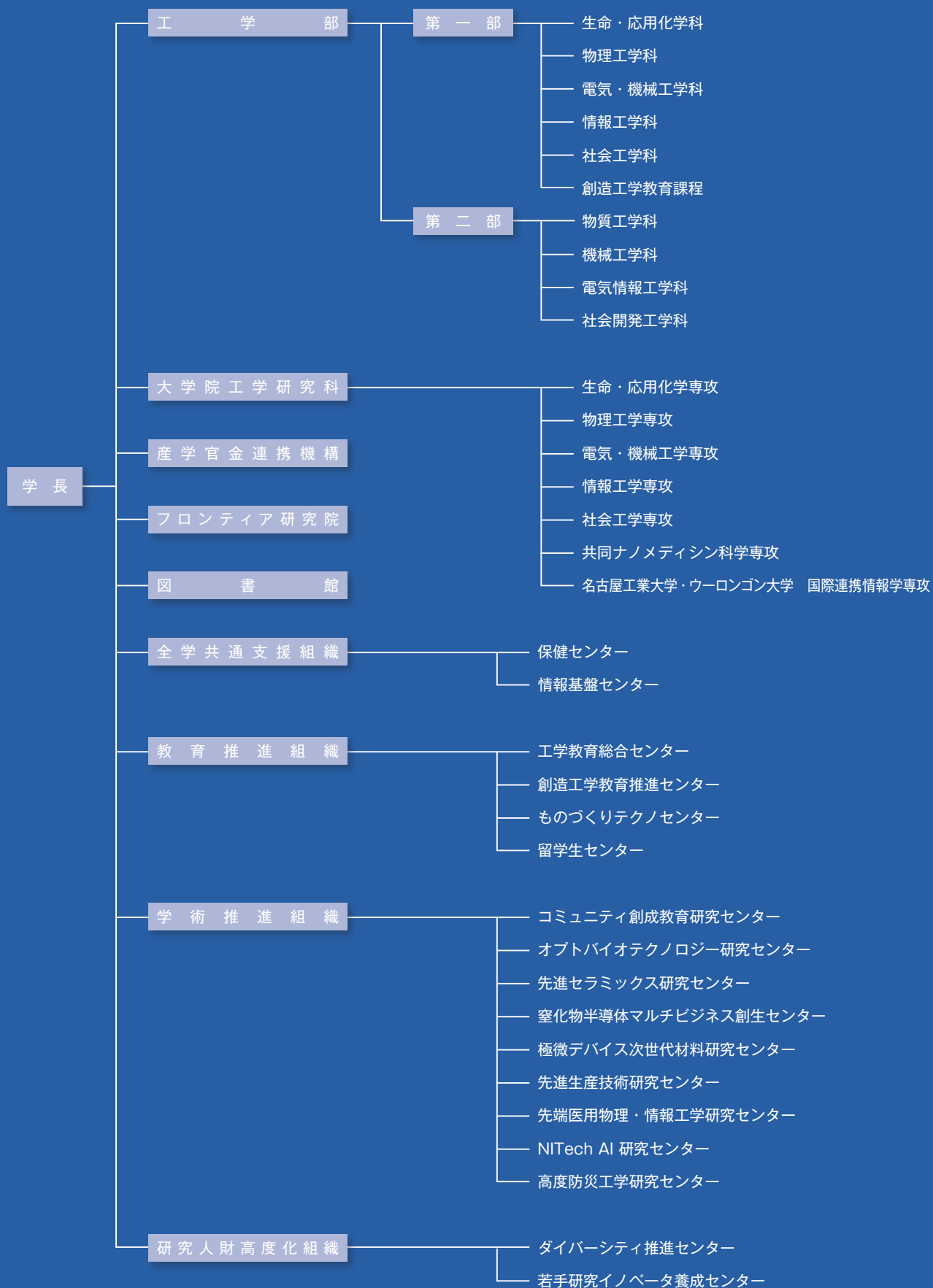
学問分野による縦割りの教育研究組織から離れて、異分野の教員が交流する横断的、学際的な研究系組織として「領域」を置いています。おもひ、しくみ、つくり、ながれという四つの領域に加えて、平成28年度には、グローバル教育研究改革・機能強化を一層推進するために、雇用する海外有力大学からの教育研究ユニットの研究者や学長のリーダーシップにより本学の研究力強化を目的として採用する教員を配属するグローバル領域を設置しました。

各教員は、いずれかの領域に所属し、教員同士が互いに刺激し合うことで、新たな学際的な研究プロジェクトが起ち上がることを期待するものです。



(注) 博士前期課程は2020年4月に上記の5専攻を廃止して、工学専攻を開設します。





学部・大学院

工学部（第一部）

生命・応用化学科

環境問題やエネルギー問題等の重要課題を解決するため、分子設計、有機・無機合成、生命現象解析、高分子材料、セラミックス材料、材料物性評価、分析技術、構造解析、理論計算、物理化学現象、プロセス設計等の幅広い化学的知識を学び、新規材料の創製や、生命機能の解明・再生等のための知識と技術を習得します。

分野

- ☐ 生命・物質化学
- ☐ ソフトマテリアル
- ☐ 環境セラミックス



理工学

地域・産業の発展と持続可能な社会の実現には、新しいシミュレーション解析やナノスケール計測技術の創成とイノベーションに不可欠な革新的機能材料の開発が求められており、そのためには「材料機能」と「応用物理」の学術分野を融合させた試みが重要です。

分野

- ☐ 材料機能
- ☐ 応用物理



電気・機械工学科

自動車・鉄道・電気製品をはじめとする今日の私たちの身の回りの製品は、電気・電子部品と機械部品の巧みな組み合わせによって設計されています。これらを実現するための原理や連携技術から、これらを造る生産技術まで、電気電子工学と機械工学の広範な知識と応用力を持った技術者教育が本学科の特色・強みです。

分野

- ☐ 電気電子
- ☐ 機械工学



情報工学科

現代社会の基盤となるネットワーク技術、知能情報技術、メディア情報技術を踏まえ、次世代の新しい情報システムを実現できる人材、人にやさしい高度情報化社会をつくりあげていくことのできる人材を育成します。また、豊かな情報化社会に向けて既存の理論や技術を発展させ、高度な理論や技術を研究開発できる能力と感性を備えた人材を育成します。

分野

- ☐ ネットワーク
- ☐ 知能情報
- ☐ メディア情報

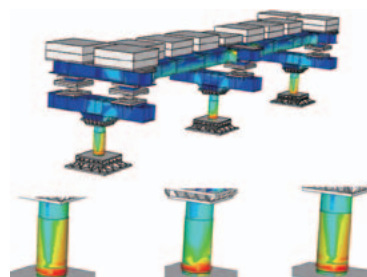


社会工学科

広く人間をとりまく建築、デザイン、社会基盤整備、国土形成、環境、防災、経営工学、システム・マネジメントなどに関する課題を解決するため、持続可能な社会を構築できる高度な工学的知識と実践する能力を持つ人材を育成します。このために、本学科は建築・デザイン、環境都市、経営システムの3つの分野から構成されています。

分野

- ☐ 建築・デザイン
- ☐ 環境都市
- ☐ 経営システム



創造工学教育課程（6年一貫教育）

未来の産業や社会を工学技術によって変革する技術者・研究者を育成することを目的に、平成28年に新たに開設されました。学部4年間と大学院博士前期課程2年間を接続した6年一貫の学習、分野横断的に設計するカリキュラム、研究室ローテーションなどの実践的授業を提供し、幅広い工学分野のセンスをもった総合的エンジニアを育成します。

コース

- ☐ 材料・エネルギー
- ☐ 情報・社会



工学研究科（博士前期課程・博士後期課程）

生命・応用化学専攻

分子レベルでの性質解明と生命機能解明するための知識、材料特性の設計、エネルギー変換、情報交換・伝達を学び、工学材料の開発、創薬や生体材料、環境調和性の高い材料や生命機能に学んだ様々な機能性材料の開発のための高度な知識・技術を習得します。

分 野

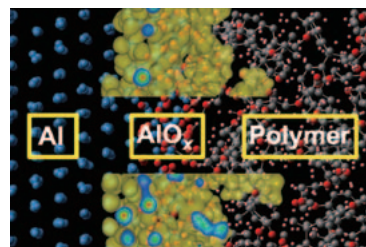
☐ 生命・物質化学
☐ ソフトマテリアル

☐ 環境セラミックス


物理工学専攻

物理工学を機軸とする幅広い基盤分野に基づき、凝縮相・極限相中の重要な素過程を原子・分子レベルから解明し、ナノ組織や電子構造の制御を実践する技術を学ぶことで、環境・エネルギー問題の解決に寄与する革新的材料や機能デバイスを創成できる人材の育成を目指します。とくに、先進的なシミュレーション解析技術、ナノスケール計測と物性評価技術、材料物性・機能制御技術などに焦点をあてた教育と研究を行います。

分 野

☐ 材料機能
☐ 応用物理


電気・機械工学専攻

電気・機械工学専攻は、工業技術・科学技術の創出を支える高度な教育と研究を通して、人々の生活をより豊かで実りあるものにすることに貢献します。また、電気電子工学、機械工学の学問的基礎を確実に踏まえ、かつ相互の連携を図りながら、革新的な技術創出に貢献する人材を育成します。

分 野

☐ 電気電子
☐ 機械工学


情報工学専攻

理工学手法を用いた情報数理、計算機科学、人工知能と人工生命、ソフト情報工学とハード情報工学の融合など、情報の科学と工学に関する高度な教育と研究を行うことにより、各技術分野を基盤とした視野で、先端的高度情報化の社会形成を通して、人類の発展に寄与できる人材を育成します。

分 野

☐ ネットワーク
☐ 知能情報

☐ メディア情報
☐ 情報数理


社会工学専攻

建築・デザイン、環境都市、経営システムに関する課題を解決できる高度な教育と研究を通して、持続可能な社会を構築し、学際的新領域の創成に貢献できるリーダー的人材を育成します。

分 野

☐ 建築・デザイン
☐ 環境都市

☐ 経営システム


（注）博士前期課程は2020年4月に上記の5専攻を廃止して、工学専攻を開設します。

学部・大学院

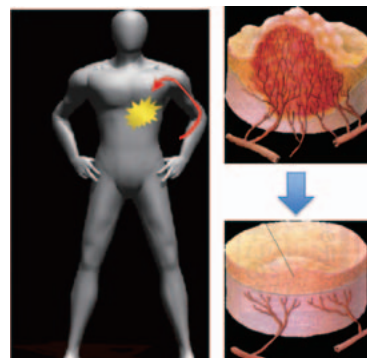
工学研究科（博士後期課程）

共同ナノメディシン科学専攻

名古屋工業大学工学研究科と名古屋市立大学薬学研究科が連携して、最先端の薬学とナノ工学を駆使し、薬を【つくる】機能医薬創成学部門（内容：高度精密有機合成、ナノメディシン工学、バイオテクノロジー）、【輸送する】薬物送達・動態科学部門（内容：薬物送達科学、薬物動態科学、人工蛋白質工学）、そして【評価する】医薬支援ナノ工学部門（内容：ナノ生体医工学、バイオメカニクス、ナノイメージング）の3つの部門において、教育・研究を行い、薬工両面に精通し、新薬・機能性食品・化粧品などの研究開発のコアメンバーとなる人材を育成します。

部門

☐ 機能医薬創成学
☐ 薬物送達・動態科学

☐ 医薬支援ナノ工学


名古屋工業大学・ウーロンゴン大学 国際連携情報学専攻

名古屋工業大学とウーロンゴン大学（オーストラリア）のジョイント・ディグリープログラムです。本専攻を修了した学生には、両大学が共同で単一の学位を授与します。本専攻では、超スマート社会の実現や、第4次産業革命への貢献を見据え、情報学分野において世界をリードし新規研究分野を開拓できる研究者、国際的な展開を行うIT関連企業を始めとするグローバル企業において新規事業の開拓を先導するグローバルリーダーとしての実践的研究者・技術者を養成します。



工学部（第二部）

物質工学科

「化学」は、生命及び生体やエネルギー・地球環境など、我々を取り巻く様々な物質や現象と深く関わっています。本学科では、「化学」を基本とした教育を通して、幅広い視野から創造的な発想でものづくりができ、産業・社会の発展において中核的役割を担う技術者・研究者を育成することを目的としています。この目的の達成のために、工学としての基礎学力及び化学物質の構造と性質、生体・生命関連物質の構造と機能、エネルギー変換・創成に関する知識の習得、そして、これらを地球環境の保全、資源・エネルギー循環と調和した「ものづくり」技術へ応用する力の涵養を目指した教育を行っています。

機械工学科

第一部電気・機械工学科の機械工学分野と同様に講義・演習・実験・実習を通じて、機械の運動、物質やエネルギーの移動、材料の強度特性、機械の制御に関する正しい知識を学びます。その対象はマイクロ電子デバイスから航空宇宙、固体（粉体含む）・液体・気体、あるいは金属・樹脂・生体材料と多岐に及びます。卒業後は社会に役立つ環境にも調和した機械を開発・設計できるような、実践的で高度な技術者を養成することを教育目標としています。また、第二部機械工学科では4年生の後期に「技術士補」の資格取得をめざしたカリキュラムが組まれています。

電気情報工学科

現代のエレクトロニクス社会を支える、電子物性・電子デバイス・電気エネルギー・回路システム・情報通信・計算機に関する知識と技術を習得した技術者の養成を行います。最初は基礎となる数学・物理学のほか、プログラミング・電磁気学・電気回路などを学びます。続いて、専門科目の基礎として電気電子材料・情報工学などを学習し、その後電子デバイス・電力工学・制御工学・通信工学・計算機工学などを学びます。以上のように、自己の特性と学問的興味により、専門分野の先端技術を幅広く体得することができます。

社会開発工学科

本学科では、道路、河川、港、空港、上下水道、ダム、エネルギー施設など、私たちの安全・快適な社会生活を支える基盤施設の整備に関わる工学技術を学び、国や自治体の技術系公務員や、計画・設計コンサルタント、建設会社等の幅広い職域で活躍できる技術者を養成します。

図書館は、本学の学術情報に関する中心機関として、図書及びその他の資料を収集・管理し、学生・職員に提供し、教育、研究及び総合的教養の向上に資することを目的としています。グループ学習のための個室や一人で集中して学習できるコーナーを設置し、文献収集法の講習を実施するなど学生の能動的な学習を支援しています。

開館時間

曜日	通常期間中	休業期間中
月～金	8:45～21:45	8:45～16:45
土日祝日	8:45～16:45	休館

利用状況

平成30年度

開館日数	319日
入館者数	255,778人
貸出冊数	48,988冊
文献複写	1,155件



4階	学術雑誌（技術・工学）、セミナー室
3階	学術雑誌（自然科学、技術・工学、産業）、研究ブース、セミナー室、新着雑誌コーナー、大学資料室、国際交流コーナー
2階	図書（技術・工学、芸術、言語）、学術雑誌（社会科学、自然科学）、PC/AVコーナー、メディア室、自由閲覧室、セミナー室、地域連携コーナー、パソコンコーナー、集密書庫、リフレッシュコーナー
1階	図書（自然科学、技術・工学、総記、哲学、歴史、社会科学、文学、産業）、カウンター、情報検索コーナー、ブラウジングコーナー、インフォメーションコーナー、集密書庫
地階	閉架集密書庫

蔵書数

平成30年度末現在

媒体	和	洋	計
図書	258,316冊	206,360冊	464,676冊
雑誌	2,450種	3,173種	5,623種
電子ブック	534	20,141	20,675
電子ジャーナル	99	7,356	7,455



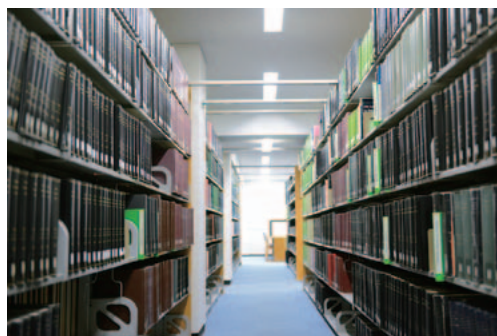
リポジトリ利用状況

平成30年度末現在

アイテム数	4,663
アクセス数	54,665
ダウンロード数	458,212

名古屋工業大学機関リポジトリ(<https://nitech.repo.nii.ac.jp/>)

名古屋工業大学内で生産された学術情報（博士論文や教員の発表論文など）を検索・閲覧できます。



産学官金連携機構

機構長 江龍 修

民間企業との組織対組織の共創関係の強化を目指して、産学官連携センターと大型設備基盤センターを一体的に統合し、産学官金連携機構へと再編しました。本機構は組織型研究プロジェクトの企画・立案等を担う「渉外部門」、共同研究や社会連携、人財育成プロジェクトの管理・運営を担う「事業創造・人財育成部門」、学内の大型・共用教育研究設備の管理・利用促進を担う「設備共用部門」の3部門で構成されています。この新しい組織体制で、オープンイノベーションに求められる大学の役割を果たし、「知・人財の交流」の拡大を図るとともに、組織として魅力ある成果を保証する提案を実施していきます。



フロンティア研究院

総括院長・材料科学フロンティア研究院長 柿本 健一
情報科学フロンティア研究院長 徳田 恵一

本学のエデュケーション機能の更なる強化を図り、卓越した研究成果を創出する人材を継続的に輩出する場を構築するため、本学の研究実績を基に若手研究者を主体に構成する材料科学フロンティア研究院と情報科学フロンティア研究院が置かれています。

学内資源の重点配分により国際共同研究を推進し、環境エネルギー分野、ヘルスケア分野及び知能技術分野を核とした国際的なイノベーションの展開を担うとともに、新しい学問分野や産業分野の創出を牽引するイノベーション・リーダーを育成し、地域及び産業の発展に貢献することを目的としています。



全学共通支援組織

保健センター

センター長 中野 功

保健センターは大学構成員の健康支援を使命とし、疾病の早期発見・早期治療、再発予防、発症予防そして健康増進を目指しています。内科及び精神科医師（校医、産業医）、保健師、看護師、カウンセラーによる職員及び学生の健康支援、職場巡視も行っています。また、健康相談を行うとともに安全衛生委員会、教務学生委員会、安全管理室等と連携し、定期健康診断、特殊健康診断と有所見者の事後措置を実施しています。



情報基盤センター

センター長 松尾 啓志

情報基盤センターは、名古屋工業大学内への電子情報基盤の提供と、この基盤を活用した教育、研究支援を行う組織として、平成18年4月に発足しました。本センターは、データベース部門、コースマネジメントシステム部門、及びネットワーク部門の3部門から構成されています。学内の情報インフラを提供するとともに、新しい事務システム、教育システムの開発も行っています。さらに情報基盤センターでは、情報ネットワーク、情報メディア、情報セキュリティの研究を行っています。



■工学教育総合センター

センター長 吉田 江依子

工学教育総合センターは、入学から修学、卒業及び就職に至るまでを総合的に把握した上で、継続的な学生支援を推進すると同時に、本学の工学教育の質を向上することを目的としています。そのため、アドミッションオフィス、創造教育開発オフィス、キャリアサポートオフィスの3つのオフィスを設置し、互いに連携を持ちながら活動しています。



■創造工学教育推進センター

センター長 犬塚 信博

本学は、科学技術の深い理解と工学方法論の確かな理解を基礎として、分野横断的な視野と多面的価値観を身につけさせるための新たな教育課程として平成28年に創造工学教育課程を設置しました。創造工学教育推進センターは創造工学教育課程と関連する名古屋工業大学の教育を充実させ、その結果を評価することを目的としています。

創造工学教育課程の設計及び評価を行う企画評価部門、教育に関する国際連携のコーディネーション及び教材作成等を行う国際連携教育推進部門、産学官課題解決型学習の支援及び、地域連携型体験学習のコーディネーション等を行う産学官連携教育推進部門を置いています。



■ものづくりテクノセンター

センター長 北村 憲彦

学生及び社会人に対し高度な実践的なものづくり教育を行うとともに、ものづくり教育システムの開発を行うことを目的としています。主な業務として、実践的なものづくり実習教育の実施、ものづくり教育システムの開発、社会人を対象とするものづくり教育の実施、教育研究用機器・機材の製作及び支援、学科・専攻横断型教育研究プロジェクトの実施と支援などを行っています。



■留学生センター

センター長 山本 いずみ

留学生センターは、外国人留学生の就学を支援するために、3つの日本語コース（補講コース・予備教育コース・社会人教育コース）を開講しています。各コースは目的別・レベル別にクラス分けされており、初級からビジネス日本語まで、様々なニーズに応じた授業を実施しています。また、見学旅行や文化講座、キャリアサポート・セミナー等、留学生と日本人学生がともに学ぶ機会を提供することで、グローバル人材として成長することを支援します。こうした活動を通じて、キャンパスのグローバル化を推進します。



■コミュニティ創成教育研究センター

センター長 小田 亮

世界に先駆けて超高齢社会となった日本ではこれまで以上に科学技術の貢献が期待されています。とはいえ、高齢者のケアだけに偏った技術貢献では社会の発展が望めません。いま求められているものは、高齢者が持続的に社会参加できる技術貢献です。それには工学と人文社会科学が融合することを通じて実現可能となる「高齢者の生活空間を視座とした技術貢献」という新しい発想が不可欠です。本センターは、こうした観点から、本学初の文理融合型センターとして、地域コミュニティを中心に多世代共生が可能となるような技術のあり方を理念的に追求すると同時に、実際に現場に出て、フィールドワークを通じて見出される、実践的な日常技術のあり方を追求することを目的としています。



■オプトバイオテクノロジー研究センター

センター長 神取 秀樹

光を利用した生命現象の研究は、平成20年のノーベル賞につながった「光観察」に加えて、最近では脳研究に革命をもたらしている Optogenetics（光遺伝学）など「光操作」技術が大きな注目を集めている萌芽的な学問分野です。本センターは、光が関わる生命現象を工学として解析することにより、全く新しい産業の創出に貢献することを目指します。このため、光の本質や光励起現象を正しく理解し、新しい材料を生物から、あるいは生物に範を得て創製するとともに、光を利用した医療分野への展開を図ります。例えば、光駆動イオンポンプである膜タンパク質・ロドプシンは、すでに光遺伝学の重要なツールとして使われていますが、ツール開発により、さらなる発展が期待されます。本センターは3つの部門が連携して研究を遂行するとともに、学外との異分野融合も積極的に推進します。



■先進セラミックス研究センター

センター長 安達 信泰

地球規模で直面する環境・資源・エネルギー問題を解決し、持続型社会の構築を実現するため知的マテリアル創製学を核とし、地域の資源と技術が融合することで発展してきたセラミックス産業文化を範として、地域に即した多様な新価値を探索する国際的・学際的・融合的な先進セラミックスの工学研究を実施し、社会に還元することを目的としています。



■窒化物半導体マルチビジネス創生センター

センター長 江川 孝志

本学が、世界に先駆けて研究開発を進めてきた「Si 基板上に極薄の GaN 膜を成長させる (GaN/Si) 結晶成長技術」を核として、装置・材料・デバイス等の関連企業と一体となり、現在の Si 半導体の高性能化・高付加価値化により省エネルギー化を実現でき、既存の国内 Si 半導体製造ラインを有効活用し、電力需給問題解決の一助となる大電力用パワーデバイスを開発する産学官連携体制を構築。一つ屋根の下型の研究開発拠点を形成し、当該分野における持続的な実用化研究開発を進めています。

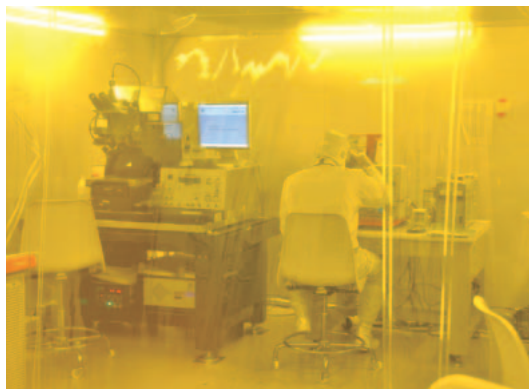


■極微デバイス次世代材料研究センター

センター長 江川 孝志

新規半導体材料及び新機能デバイス・システムの研究開発並びに産業・生産技術に直結した技術の確立等を行い、これを通して教育・研究の進展に資することを目的としています。

研究分野は、ナノ構造の結晶成長及び物性評価、発光デバイス（LED、レーザー）、電子デバイス、フォトディテクター、超高効率太陽電池です。



■先進生産技術研究センター

センター長 糸魚川 文広

本センターは、新しいもののづくりに求められる先進的な加工システムの提案と開発（グローバルなニーズ）と必要な先進要素技術開発（大学の持つ先進的なシーズ）のために大学と多数の企業が参加するオープンイノベーション・プラットフォームを中心とした共創空間を提供することを目的としています。大学・地域・産業界の連携・連鎖を醸成し、その研究開発を推進・展開するためのイノベーション・ハブとなり得るセンターの実現を目指します。



■先端医用物理・情報工学研究センター

センター長 平田 晃正

本センターは、計算科学を駆使することにより取得した高品質かつ大量な計算データと、特化した実測データとを併せたデータ科学応用により、公衆衛生・医療・製品設計が抱える諸問題を解決するための医用物理・情報工学の融合研究拠点を設置し、国内外の先端研究拠点と連携し、ヒトに関する新規学術分野を確立、多面的かつ俯瞰的な視座を備えた人材を育成することを目的としています。



■NITech AI 研究センター

センター長 伊藤 孝行

NITech AI 研究センターでは、地に足のついた AI 技術をコアとするイノベーション・ハブとして、社会や産業の発展に貢献します。社会や産業における課題に対し、名古屋工業大学の広範な工学分野のグループと緊密に連携し共創的に解決します。当センターは次の4つのミッションを追求します：(1) 先端的・革新的な知能計算技術の追求、(2) 幅広い出口による産業界・地域社会への貢献、(3) 学術・産業グローバル展開、および (4) AI 人材育成。この4つの目的を達成するために、先端知能計算研究部門、データサイエンス研究部門、情報基盤研究部門、および社会連携研究部門を設置しています。特に、2020年に日本で開催される AI の最高峰の国際会議 IJCAI2020の開催に中心的役割を担うなど、AI 技術による東海地区を中心とした日本の産業や学術研究の発表に貢献していきます。



■高度防災工学研究センター

センター長 井戸田 秀樹

災害を予測・軽減・制御する技術の開発、巨大災害のプロセス、災害ポテンシャルの評価を通じて世界をリードする防災工学の拠点を形成します。諸工学に立脚した防災・減災サービスのフレーム構築及び社会実装を通じて災害に強い地域社会の構築に貢献することを目的としています。

本センターは、都市・建築に対する災害リスクを対象とした「災害リスク評価・研究部門」、減災のための新技術の研究・開発を対象とした「防災技術研究・開発部門」の2つの部門で構成されています。また、各部門での研究成果の社会還元、および学内防災への応用・活用を目的とし、学内外組織との連携強化や円滑化のために「プロジェクト推進室（インターフェイス）」も設置しています。



■研究人財高度化組織

■ダイバーシティ推進センター

センター長 呉 松竹

ダイバーシティ推進センターは、「女性研究者研究活動支援事業【一般型】（平成26年度～平成28年度）」の成果が評価され「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ【特色型】」の連続した採択を受けて、平成29年10月に男女共同参画推進センターを発展的に解消して創設されました。従来の女性研究者支援の取組をさらに深化・拡大する「多様性人材育成プログラムNITech CAN」によって、研究力向上と意識啓発のためのセミナーを開催するほか、ライフイベント期の研究者に対する研究支援員配置、託児補助などを実施し、より快適で生産性の高い研究環境の整備に努めています。さらに、OG 人材バンクを拡充し、企業との連携による次世代育成のための基盤構築を進めています。



■若手研究イノベータ養成センター

センター長 内匠 逸

若手研究イノベータ養成センターは、平成21年の設置以来、先導的融合分野で活躍イノベーションの創出や新研究領域の開拓に取り組む若手研究者（若手研究イノベータ）を支援し、自立した国際水準の研究者に育ててきました。文部科学省科学技術振興調整費による「産学官連携による若手研究イノベータの養成」プログラムおよび平成28年度からの「テニユアトラック普及・定着事業」を通じて18名を輩出しました。平成27年以降は全学的な観点から、新規採用されたすべての助教の育成とテニユア審査を行っています。平成31年4月時点においては32名のテニユアトラック助教（TT 助教）が所属しております。



海外拠点

本学の紹介及び情報発信等広報活動の推進、本学留学希望者に対する情報提供や支援、本学と諸外国の研究者による共同研究等の支援や学術・教育交流の推進等を目的としています。

共通連絡先：intpromo@adm.nitech.ac.jp

名称	国名	所長	所在地	設置
北京事務所	中国	藤 正督	北京化工大学（BUCT）内	平成23年6月
マレーシア事務所	マレーシア	曾我 哲夫	マラ工科大学（UiTM）内	平成25年3月
ヨーロッパ事務所	ドイツ	柿本 健一	エアランゲン・ニュルンベルク大学（FAU）内	平成25年7月

主な教育研究補助金採択状況

事業名	プロジェクト名	期 間	内 容
卓越研究員事業	—	2016年度～2020年度	新たな研究領域に挑戦するような若手研究者が安定かつ自立して研究を推進できるような環境を実現するとともに、全国の産学官の研究機関をフィールドとして活躍し得る若手研究者の新たなキャリアパスを提示するプログラム。
科学技術人材育成費補助事業	「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」	2017年度～2022年度	工学におけるダイバーシティ推進に貢献するため、「次世代育成」と「研究者支援」を2本の柱とする人材育成プログラム“NiTech CAN”の取り組みにより、地域産業界・同窓会との協同を通じてイノベーション創出の鍵となる多様性豊かな人材を育成する。

プロジェクト研究所

プロジェクト研究所は、学際プロジェクトや産学官連携に資する研究を推進するもので、事業に要する経費は、各年度2,000万円以上の外部資金をもって充て、設置期間は3年以上5年以下とすることを設置の条件としています。

研究所の名称	研究代表者（研究所長）
次世代耐震工学研究所	小畑 誠
コレクティブインテリジェンス研究所	伊藤 孝行
日本ガイシ マテリアルイノベーション研究所	森 秀樹
無焼成セラミックス研究所	藤 正督
表面反応化学研究所	白井 孝
接着・接合研究所	山下 啓司
国際音声言語技術研究所	徳田 恵一
ピアメカニクス 次世代モーションシステム研究所	岩崎 誠
建設材料研究所	白井 孝
生体電磁工学研究所	平田 晃正
ナノ材料・機能分子創製研究所	日原 岳彦
窒化ガリウムパワー半導体研究所	江川 孝志
次世代エンジニア育成研究所	産学官金連携機構長

注：設置順

学生生活上の施設

■ゆめ空間 19号館1階



学生が集い、語らい、学習することができるフリースペースとして「ゆめ空間」があります。1階を集いの場とする動の空間として飲食もできるスペース、2階は自学自習の場とする静の空間として、自由に利用できるPCも設置されている学習スペースとなっています。

■ゆめ広場 19号館北側



キャンパス屋外の憩いの広場として「ゆめ広場」があります。「ゆめ広場」は学生からアイデアを募った学内コンペティションを経て造られました。デッキはゆっくり読書をしたり、友人同士でランチをしたりと、学生がのんびりくつろげる空間です。

■ゆめルーム 53号館1階



学生の集いの場に焦点をあてたフリースペースとして「ゆめルーム」があります。「ゆめルーム」は開放的で明るい空間となっており、隣には大学生協ショップ「かどっこ」があるなど、学生同士の交流がより活発にできる学生交流スペースとなっています。

■自習ルーム・自習室 23号館2階、52・53号館各階



授業の合間等に予習・復習ができる場所として23号館2階に自習室、52・53号館講義棟の各階に自習ルームがあります。学習机は、隣席との間に衝立を備えた仕様となっており、静穏な学習環境を用意しています。

■ラーニング・コモンズ Li:NCs



図書館と隣接する講堂 NITech Hall (ナйтеック・ホール) の2階にラーニング・コモンズ Li:NCs (リンクス) があります。Li:NCs は、授業やイベントで使用される時間を除き、学習スペースとして自由に利用できます。

■保健センター



保健センターは、学生のみなさんの健康について専門的な支援を行う施設です。学生の健康維持・増進、疾病の早期発見、予防等を目的として、健康診断、健康相談、健康指導等を行っています。

■ 大学会館



大学会館は、大食堂、カフェテリア方式食堂、喫茶室、購買、理髪店のほか、学生が利用できる就職資料室、女子談話室、集会室、課外活動施設（5室）等の機能を備え、目的に合った使用ができるようになっています。

■ NITech マート



NITech マートは、1階はコンビニ「はじっこ」、2階は「ラウンジカフェ」となっており、昼夜利用することができます。また、「はじっこ」内には、ATM が設置されているほか、「ラウンジカフェ」は食事の場だけでなく、コミュニケーションの場として利用することができます。

■ NITech Cosmo Village



NITech Cosmo Village は、4棟208室からなる外国人留学生と日本人学生が居住する国際学生寮です。ユニット制となっており、1ユニットは8つの個室で構成され、ユニット内に共用のシャワールーム2つ、洗濯スペース、キッチン、ダイニングルームがあります。外国人留学生と日本人学生が共同生活を通して、教育・研究上の国際交流を推進する場となっています。

■ 学生寮（恒和寮）



恒和寮は、学生生活のための良好な環境を提供し、規律ある共同生活を通して教養を高め、大学生活の充実に資することを目的として設けられた男子学生寮です。生活上の約束事は寮生同士が話し合いで決定する「自治寮」とすることで、自立精神や社会性を養うことも目指しています。

■ 課外活動施設



学生がスポーツや芸術に打ち込んだり、趣味を共有する仲間と出会い活動できる場として、御器所地区には、合宿所、弓道場、体育館、プール、運動場などの施設があり、千種地区には、合宿所、野球場、グラウンドなどの施設があります。また、学外には、馬場、ボート艇庫、ヨット艇庫があります。

■ 木曽駒高原セミナーハウス



セミナーハウスは、本学の学生・職員の研修及び健康増進を図るために設けられた施設です。長野県木曽郡木曽町の木曽駒が岳の山麓で正面に御岳を臨む風光明媚なところにあります。課外活動、クラブ、研究室等の活動、研修、親睦等に利用できます。

役員・教職員数

■役員数

学 長			理 事			監 事			合 計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1		1	3		3	1	1	2	5	1	6

■教員数（本務者）

年齢区分	教 授			准 教 授			助 教			合 計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
～24歳			0			0			0	0	0	0
25～34歳			0	3	0	3	26	5	31	29	5	34
35～44歳	2		2	56	8	64	19		19	77	8	85
45～54歳	56	1	57	47	3	50	5		5	108	4	112
55～64歳	81	9	90	21	0	21	1		1	103	9	112
65歳			0			0			0	0	0	0
計	139	10	149	127	11	138	51	5	56	317	26	343

■職員数（本務者）

事務職員			技術系職員			医療職員			合 計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
73	50	123	38	11	49	0	2	2	111	63	174

注：職員数（本務者）とは、特定有期雇用職員・再雇用職員・参事を除く、常勤職員を示す。

■工学部（第一部）

学科名	入学定員	収容定員	現員														
			1年次			2年次			3年次			4年次			合 計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
生命・応用化学科	210 (2)	840 (4)	153 (2)	72 (0)	225 (2)	150 (2)	65 (1)	215 (3)	152 (0)	58 (4)	210 (4)	147 (1)	67 (2)	214 (3)	602 (5)	262 (7)	864 (12)
物理工学科	105 (2)	420 (4)	106 (3)	3 (0)	109 (3)	101 (3)	8 (0)	109 (3)	100 (0)	8 (0)	108 (0)	104 (0)	5 (0)	109 (0)	411 (6)	24 (0)	435 (6)
電気・機械工学科	200 (2)	800 (4)	177 (2)	31 (0)	208 (2)	180 (4)	28 (2)	208 (6)	190 (14)	35 (4)	225 (18)	196 (13)	30 (4)	226 (17)	743 (33)	124 (10)	867 (43)
情報工学科	145 (2)	580 (4)	136 (1)	14 (1)	150 (2)	138 (6)	14 (0)	152 (6)	143 (3)	12 (1)	155 (4)	144 (3)	3 (0)	147 (3)	561 (13)	43 (2)	604 (15)
社会工学科	150 (2)	600 (4)	118 (2)	39 (2)	157 (4)	119 (1)	44 (2)	163 (3)	128 (6)	39 (3)	167 (9)	120 (5)	38 (3)	158 (8)	485 (14)	160 (10)	645 (24)
創造工学教育課程	100	400	76 (0)	25 (0)	101 (0)	76 (0)	33 (0)	109 (0)	77 (0)	22 (0)	99 (0)	81 (0)	23 (0)	104 (0)	310 (0)	103 (0)	413 (0)
生命・物質工学科※												16 (4)	2 (0)	18 (4)	16 (4)	2 (0)	18 (4)
環境材料工学科※												7 (1)	0 (0)	7 (1)	7 (1)	0 (0)	7 (1)
機械工学科※												35 (6)	3 (1)	38 (7)	35 (6)	3 (1)	38 (7)
電気電子工学科※												26 (3)	1 (0)	27 (3)	26 (3)	1 (0)	27 (3)
情報工学科※												39 (2)	0 (0)	39 (2)	39 (2)	0 (0)	39 (2)
建築・デザイン工学科※												14 (0)	3 (1)	17 (1)	14 (0)	3 (1)	17 (1)
都市社会工学科※												7 (0)	2 (0)	9 (0)	7 (0)	2 (0)	9 (0)
計	910 (10)	3,640 (20)	766 (10)	184 (3)	950 (13)	764 (16)	192 (5)	956 (21)	790 (23)	174 (12)	964 (35)	936 (38)	177 (11)	1,113 (49)	3,256 (87)	727 (31)	3,983 (118)

注1：平成28年4月学科改組を実施。※印は改組前の学科を指す。

注2：（ ）は、3年次編入学定員を外数で示す。

注3：（ ）は、外国人留学生を内数で示す。

■工学部（第二部）

学科名	入学定員	収容定員	現員														
			1年次			2年次			3年次			4年次			5年次		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
物質工学科	5	25	3	4	7	5	0	5	5	1	6	4	0	4	4	1	5
機械工学科	5	25	5	1	6	4	1	5	4	0	4	4	1	5	5	0	5
電気情報工学科	5	25	5	1	6	5	0	5	7	0	7	7	0	7	8	0	8
社会開発工学科	5	25	4	1	5	4	1	5	5	1	6	3	3	6	6	2	8
計	20	100	17	7	24	18	2	20	21	2	23	18	4	22	23	3	26

■大学院工学研究科 博士前期課程

専攻名	入学定員	収容定員	現員								
			1年次			2年次			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計
生命・応用化学専攻	165	330	150 (3)	39 (1)	189 (4)	134 (5)	52 (4)	186 (9)	284 (8)	91 (5)	375 (13)
物理工学専攻	78	156	77 (0)	5 (1)	82 (1)	83 (2)	2 (0)	85 (2)	160 (2)	7 (1)	167 (3)
電気・機械工学専攻	138	276	205 (13)	10 (1)	215 (14)	212 (11)	7 (2)	219 (13)	417 (24)	17 (3)	434 (27)
情報工学専攻	110	220	127 (9)	11 (2)	138 (11)	127 (12)	9 (2)	136 (14)	254 (21)	20 (4)	274 (25)
社会学専攻	95 (10)	180 (10)	87 (7)	33 (8)	120 (15)	102 (10)	29 (14)	131 (24)	189 (17)	62 (22)	251 (39)
計	586 (10)	1,162 (10)	646 (32)	98 (13)	744 (45)	658 (40)	99 (22)	757 (62)	1,304 (72)	197 (35)	1,501 (107)

注1：() は、大学院規則第8条第3項に定める標準修業年限を1年以上2年未満とする定員を内数で示す。

注2：() は、外国人留学生を内数で示す。

■大学院工学研究科 博士後期課程

専攻名	入学定員	収容定員	現員											
			1年次			2年次			3年次			合計		
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
生命・応用化学専攻	9	27	8 (2)	4 (2)	12 (4)	10 (2)	2 (0)	12 (2)	6 (0)	2 (1)	8 (1)	24 (4)	8 (3)	32 (7)
物理工学専攻	5	15	5 (2)	2 (1)	7 (3)	5 (4)	1 (1)	6 (5)	6 (2)	2 (1)	8 (3)	16 (8)	5 (3)	21 (11)
電気・機械工学専攻	9	27	11 (7)	0 (0)	11 (7)	11 (5)	0 (0)	11 (5)	10 (2)	3 (2)	13 (4)	32 (14)	3 (2)	35 (16)
情報工学専攻	7	23	6 (0)	0 (0)	6 (0)	4 (0)	1 (1)	5 (1)	5 (0)	1 (0)	6 (0)	15 (0)	2 (1)	17 (1)
社会学専攻	7	21	15 (3)	2 (0)	17 (3)	5 (2)	5 (2)	10 (4)	14 (2)	9 (2)	23 (4)	34 (7)	16 (4)	50 (11)
共同ナノメディン科学専攻	3	9	3 (1)	0 (0)	3 (1)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	5 (2)	0 (0)	5 (2)	9 (3)	0 (0)	9 (3)
名古屋工業大学・ウーロンゴン大学 国際連携情報学専攻	2	4	1 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	2 (2)				2 (2)	1 (1)	3 (3)
機能工学専攻 [※]									3 (1)	0 (0)	3 (1)	3 (1)	0 (0)	3 (1)
情報工学専攻 [※]									5 (1)	0 (0)	5 (1)	5 (1)	0 (0)	5 (1)
社会学専攻 [※]									6 (1)	4 (0)	10 (1)	6 (1)	4 (0)	10 (1)
未来材料創成工学専攻 [※]									1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)
創成シミュレーション工学専攻 [※]									3 (0)	0 (0)	3 (0)	3 (0)	0 (0)	3 (0)
計	42	126	49 (16)	8 (3)	57 (19)	37 (14)	10 (5)	47 (19)	64 (11)	21 (6)	85 (17)	150 (41)	39 (14)	189 (55)

注1：平成28年4月専攻改組を実施。※印は改組前の専攻を指す。

注2：() は、外国人留学生を内数で示す。

2019年（令和元年）度入学状況

2019年（令和元年）度入学状況

工学部第一部

学科名	入試別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生命・応用化学科	推薦	20	47 (24)	47 (24)	20 (8)	20 (8)
	前期	120	332 (102)	310 (93)	129 (40)	127 (40)
	後期	70	431 (117)	219 (54)	91 (30)	76 (24)
	私費	若干名	34 (13)	27 (10)	6 (3)	1 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	日韓	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
物理工学科	推薦	15	29 (2)	29 (2)	17 (0)	17 (0)
	前期	55	187 (7)	178 (7)	58 (1)	57 (1)
	後期	35	267 (13)	138 (8)	39 (2)	32 (2)
	私費	若干名	20 (3)	15 (3)	4 (0)	2 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	日韓	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
電気・機械工学科	推薦	20	81 (81)	81 (81)	22 (22)	22 (22)
	前期	110	304 (15)	295 (15)	110 (5)	110 (5)
	後期	70	569 (29)	287 (18)	94 (6)	74 (4)
	私費	若干名	36 (5)	33 (5)	8 (3)	0 (0)
	国費・政費	若干名	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
	日韓	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
情報工学科	推薦	15	62 (14)	62 (14)	15 (2)	15 (2)
	前期	85	323 (29)	301 (24)	88 (9)	87 (9)
	後期	45	360 (21)	200 (11)	56 (2)	46 (2)
	私費	若干名	41 (6)	36 (5)	6 (0)	1 (0)
	国費・政費	若干名	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
	日韓	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
社会工学科 (建築・デザイン分野)	AO	3	8 (4)	8 (4)	2 (2)	2 (2)
	前期	42	137 (42)	132 (40)	46 (13)	46 (13)
	後期	25	219 (70)	122 (36)	26 (6)	21 (5)
	私費	若干名	13 (8)	10 (6)	3 (2)	1 (1)
	国費・政費	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
	日韓	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
社会工学科 (環境都市分野)	推薦	3	6 (1)	6 (1)	3 (0)	3 (0)
	前期	25	104 (14)	101 (13)	25 (4)	23 (4)
	後期	17	160 (30)	98 (18)	22 (7)	19 (6)
	私費	若干名	11 (8)	6 (5)	3 (2)	1 (1)
	国費・政費	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
	日韓	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
社会工学科 (経営システム分野)	推薦	3	19 (6)	19 (6)	3 (1)	3 (1)
	前期	18	86 (18)	84 (18)	20 (4)	20 (4)
	後期	14	96 (16)	67 (11)	17 (2)	16 (2)
	私費	若干名	8 (5)	8 (5)	1 (1)	0 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	日韓	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
創造工学教育課程 (材料・エネルギーコース)	推薦	24	55 (14)	55 (14)	25 (6)	25 (6)
	前期	21	84 (19)	75 (16)	21 (7)	21 (7)
	後期	15	66 (6)	39 (4)	15 (2)	15 (2)
創造工学教育課程 (情報・社会コース)	推薦	16	36 (12)	36 (12)	15 (3)	15 (3)
	前期	14	63 (18)	62 (18)	15 (5)	15 (5)
	後期	10	52 (14)	37 (11)	11 (2)	10 (2)
計	推薦	116	335 (154)	335 (154)	120 (42)	120 (42)
	AO	3	8 (4)	8 (4)	2 (2)	2 (2)
	前期	490	1,620 (264)	1,538 (244)	512 (88)	506 (88)
	後期	301	2,220 (316)	1,207 (171)	371 (59)	309 (49)
	私費	若干名	163 (48)	135 (39)	31 (11)	6 (2)
	国費・政費	若干名	5 (1)	5 (1)	5 (1)	5 (1)
	日韓	若干名	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
計		910	4,353 (787)	3,230 (613)	1,043 (203)	950 (184)

注1：私費は私費外国人留学生、国費は国費外国人留学生、政費はマレーシア政府派遣留学生、日韓は日韓共同理工系学部留学生を示す。

注2：電気・機械工学科の「推薦」は女子のみ。

注3：() は、女子を内数で示す。

■工学部第二部

学科名	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
物質工学科	5	前期 5	26 (11)	25 (10)	7 (4)	7 (4)
機械工学科	5	前期 5	28 (3)	27 (3)	6 (1)	6 (1)
電気情報工学科	5	前期 5	39 (4)	34 (3)	6 (1)	6 (1)
社会開発工学科	5	前期 5	20 (3)	19 (3)	6 (1)	5 (1)
計	20	前期 20	113 (21)	105 (19)	25 (7)	24 (7)

注：（ ）は、女子を内数で示す。

■工学部第一部編入学・転入学

学科名	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生命・応用化学科	2	7 (4)	6 (3)	2 (0)	0 (0)
物理工学科	2	5 (0)	5 (0)	3 (0)	0 (0)
電気・機械工学科	2	64 (10)	58 (10)	31 (7)	20 (4)
情報工学科	2	11 (1)	9 (1)	3 (0)	2 (0)
社会工学科	2	16 (2)	15 (2)	7 (1)	5 (1)
計	10	103 (17)	93 (16)	46 (8)	27 (5)

注：（ ）は、女子を内数で示す。

■大学院工学研究科博士前期課程

専攻名	入試別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生命・応用化学専攻	推薦	58	62 (12)	62 (12)	60 (12)	60 (12)
	一般	107	147 (33)	144 (33)	129 (27)	125 (26)
	私費	若干名	7 (1)	7 (1)	4 (1)	4 (1)
	国費・政費・ABE・Pacific・ものづくり	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
物理工学専攻	推薦	28	28 (1)	27 (1)	27 (1)	26 (1)
	一般	50	72 (7)	71 (6)	60 (4)	56 (4)
	私費	若干名	3 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)
	国費・政費・ABE・Pacific・ものづくり	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
電気・機械工学専攻	推薦	54	60 (2)	59 (2)	56 (2)	55 (2)
	一般	84	203 (9)	200 (9)	177 (9)	148 (8)
	私費	若干名	21 (2)	20 (2)	11 (0)	10 (0)
	国費・政費・ABE・Pacific・ものづくり	若干名	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
情報工学専攻	推薦	35	38 (6)	38 (6)	34 (5)	34 (5)
	一般	75	120 (7)	118 (7)	98 (5)	93 (4)
	私費	若干名	21 (4)	21 (4)	11 (2)	10 (2)
	国費・政費・ABE・Pacific・ものづくり	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
社会工学専攻	推薦	38	49 (12)	47 (12)	38 (8)	38 (8)
	一般	57	83 (19)	79 (18)	75 (16)	61 (12)
	短期（社会人）2月選抜	若干名	7 (6)	7 (6)	7 (6)	7 (6)
	私費	若干名	20 (9)	18 (9)	12 (6)	11 (6)
	国費・政費・ABE・Pacific・ものづくり	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
計	推薦	213	237 (33)	233 (33)	215 (28)	213 (28)
	一般	373	625 (75)	612 (73)	539 (61)	483 (54)
	短期（社会人）2月選抜	若干名	7 (6)	7 (6)	7 (6)	7 (6)
	私費	若干名	72 (16)	69 (16)	38 (9)	35 (9)
	国費・政費・ABE・Pacific・ものづくり	若干名	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)

注1：私費は、私費外国人留学生、国費は、国費外国人研究留学生、政費は、外国政府派遣大学院留学生、ABEは、ABEイニシアティブ留学生、PacificはPacific Leads留学生、ものづくりは、ものづくり愛知留学生を示す。

注2：（ ）は、女子を内数で示す。

■大学院工学研究科博士後期課程

専攻名	入試別	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
生命・応用化学専攻	一般（1次）	9	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)
	一般（2次）	若干名	4 (2)	4 (2)	4 (2)	4 (2)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
物理工学専攻	一般（1次）	5	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)
	一般（2次）	若干名	4 (2)	4 (2)	4 (2)	4 (2)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
電気・機械工学専攻	一般（1次）	9	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)
	一般（2次）	若干名	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)
	国費・政費	若干名	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)
情報工学専攻	一般（1次）	7	4 (0)	4 (0)	4 (0)	4 (0)
	一般（2次）	若干名	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
社会工学専攻	一般（1次）	7	6 (0)	6 (0)	6 (0)	6 (0)
	一般（2次）	若干名	12 (2)	12 (2)	11 (2)	11 (2)
	国費・政費	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
共同ナノメディシン科学専攻	一般（1次）	3	3 (0)	3 (0)	3 (0)	2 (0)
	一般（2次）	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	10月入学	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	国費・政費	若干名	1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)
名古屋工業大学・ウーロンゴン大学 国際連携情報学専攻		2	2 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)
計	一般（1次）	42	29 (2)	29 (2)	28 (2)	27 (2)
	一般（2次）	若干名	26 (6)	26 (6)	25 (6)	25 (6)
	10月入学	若干名	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	国費・政費	若干名	5 (0)	5 (0)	5 (0)	5 (0)

注1：国費は、国費外国人研究留学生、政費は、外国政府派遣大学院留学生を示す。

注2：（ ）は、女子を内数で示す。

■2019年（令和元年）度入学者出身学校所在都道府県

地区	第 一 部			第 二 部		
	人数	比率	明細	人数	比率	明細
北海道	3	0.3	—	0	0.0	—
東北	0	0.0	—	0	0.0	—
関東甲信越	26	2.7	茨城 1	0	0.0	茨城 0
			栃木 1			栃木 0
			群馬 1			群馬 0
			埼玉 1			埼玉 0
			千葉 2			千葉 0
			東京 4			東京 0
			神奈川 3			神奈川 0
			新潟 3			新潟 0
			山梨 1			山梨 0
			長野 9			長野 0
東海北陸	803	84.5	富山 8	23	95.8	富山 2
			石川 4			石川 0
			福井 12			福井 0
			岐阜 113			岐阜 1
			静岡 37			静岡 2
			愛知 557			愛知 17
			三重 72			三重 1
			滋賀 11			滋賀 0
近畿	63	6.6	京都 10	0	0.0	京都 0
			大阪 12			大阪 0
			兵庫 20			兵庫 0
			奈良 4			奈良 0
			和歌山 6			和歌山 0
			鳥取 0			鳥取 0
中国四国	28	2.9	島根 0	0	0.0	島根 0
			岡山 8			岡山 0
			広島 7			広島 0
			山口 1			山口 0
			徳島 2			徳島 0
			香川 3			香川 0
			愛媛 7			愛媛 0
			高知 0			高知 0
九州・沖縄	12	1.3	—	0	0.0	—
その他	15	1.6	—	1	4.2	—
計	950	100.0	—	24	100.0	—

奨学生数

2019年（平成31年）3月1日現在

区 分		独立行政法人 日本学生支援機構				地方公共 団体	財団法人 等	大学独自 奨学金	財団法人 等 (留学生)	奨学生 合計	学生数に 対する比率
		第一種	第二種	給付型	私費外国人 留学生学習 奨励費						
工学部	第一部	407	299	12	13	7	47	5	11	801	20.25%
	第二部	20	9	0	0	0	1	1	0	31	26.96%
工学研究科	博士前期	358	36	0	9	0	19	15	22	459	30.99%
	博士後期	13	0	0	4	0	3	0	7	27	17.42%

注：重複受給を含むため、延べ人数

卒業生・修了者数

工学部

学 科 名	平成30年度卒業生	累 計
生命・物質工学科*	163	1,882
環境材料工学科*	98	1,172
機械工学科*	204	2,281
電気電子工学科*	139	1,698
情報工学科*	158	1,879
建築・デザイン工学科*	71	934
都市社会工学科*	90	1,107
工学創成プログラム*	3	28
旧学科	—	38,065
計	926	49,046

第一部	物質工学科	4	175
	機械工学科	5	151
	電気情報工学科	6	174
	社会開発工学科	4	134
	旧学科	—	6,379
	計	19	7,013

工学部計	945	56,059
------	-----	--------

大学院工学研究科

専 攻 名	平成30年度修了者	累 計
生命・応用化学専攻	168	338
物理工学専攻	87	170
電気・機械工学専攻	219	416
情報工学専攻	119	241
社会工学専攻	128	252
機能工学専攻*	1	1,568
未来材料創成工学専攻*	1	650
創成シミュレーション工学専攻*	0	677
旧専攻	—	10,816
計	723	15,128

博士前期課程	生命・応用化学専攻	3	4
	物理工学専攻	1	1
	電気・機械工学専攻	4	4
	情報工学専攻	2	2
	社会工学専攻	2	2
	機能工学専攻*	1	69
	情報工学専攻*	2	111
	社会工学専攻*	2	105
	未来材料創成工学専攻*	2	104
	創成シミュレーション工学専攻*	3	50
	共同ナノメディシン科学専攻	2	12
	旧専攻	—	694
	計	24	1,158

修士課程計	—	2,452
-------	---	-------

大学院工学研究科計	747	18,738
-----------	-----	--------

注：平成28年4月学科・専攻改組を実施。＊印は、改組前の学科・専攻を指す。

平成30年度卒業生・修了者の進学状況

進学状況

(1) 進学率

出 身 区 分	卒業・修了者	進学者	進学率
工学部	926名	673名	72.7%
	19名	7名	36.8%
大学院工学研究科（博士前期課程）	723名	24名	3.3%

(2) 進学先

進学先	出 身				計
	学 部		大学院		
	第一部	第二部	博士前期	博士後期	
名古屋工業大学	645	6	23		674
名古屋大学	22		1		23
北陸先端科学技術大学院大学	1	1			2
京都大学	1				1
慶應義塾大学	1				1
筑波大学	1				1
東京工業大学	1				1
横浜国立大学	1				1
計	673	7	24	0	704

平成30年度卒業生・修了者の就職状況

平成30年度卒業生・修了者の就職状況

区 分		学 部		大学院		合 計
		第一部	第二部	前期課程	後期課程	
進学者数		673	7	24		704
就職者数	正規の職員	227	12	682	23	944
	正規の職員等でない者* (雇用契約が1年以上かつフルタイム勤務相当の者)					0
その他		26		17	1	44
計		926	19	723	24	1,692
農業、林業		0	0	0	0	0
漁業		0	0	0	0	0
鉱業、採石業、砂利採取業		0	0	1	0	1
建設業		33	1	41	0	75
製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料	0	0	4	0	4
	繊維工業	2	0	4	0	6
	印刷・同関連業	0	1	3	0	4
	化学工業、石油・石炭製品	2	0	49	1	52
	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品	9	3	35	0	47
	はん用・生産用・業務用機械器具	11	0	48	1	60
	電子部品・デバイス・電子回路	16	0	56	0	72
	電気・情報通信機械器具	10	0	57	2	69
	輸送用機械器具	48	1	205	4	258
	その他	8	2	42	1	53
電気・ガス・熱供給・水道業		2	0	25	0	27
情報通信業		43	2	56	1	102
運輸業、郵便業		0	0	12	0	12
卸売業		1	0	4	0	5
小売業		0	0	0	0	0
金融業		1	1	2	1	5
保険業		0	0	0	1	1
不動産業、物品賃貸業	不動産取引・賃貸・管理業	1	0	4	0	5
	物品賃貸業	0	0	0	0	0
学術研究、専門・技術サービス業	学術・開発研究機関	1	0	4	4	9
	法務	0	0	0	0	0
	その他の専門・技術サービス業	6	0	8	0	14
宿泊業、飲食サービス業		0	0	0	0	0
生活関連サービス業、娯楽業		2	0	1	0	3
教育、学習支援業	学校教育	0	0	1	6	7
	その他の教育、学習支援業	0	0	0	0	0
医療、福祉	医療業、保健衛生	0	0	1	0	1
	社会保険・社会福祉・介護事業	0	0	0	0	0
複合サービス事業		0	0	0	0	0
サービス業	宗教	0	0	0	0	0
	その他のサービス業	3	0	4	1	8
公務	国家公務	3	0	1	0	4
	地方公務	24	1	13	0	38
上記以外		1	0	1	0	2
計		227	12	682	23	944

注：※は、雇用の期間が1年以上で期間の定めがあるものであり、かつ1週間の所定の労働時間がおおむね30～40時間程度の者を指す。

■就職状況

(1) 就職率

出身区分		求職者	求人倍率	就職者	就職率
工学部	第一部	231名	21.0倍	227名	98.3%
	第二部	12名		12名	100.0%
大学院工学研究科	博士前期課程	687名	4.6倍	682名	99.3%
	博士後期課程	23名		23名	100.0%

注：現職者（学部第二部1名、博士前期課程12名、博士後期課程10名）を含む。

(2) 主な就職先

産業界（2名以上）

就 職 先	出 身				合 計
	学 部		大 学 院		
	第一部	第二部	前期課程	後期課程	
デンソー	2		46	1	49
トヨタ自動車	7		18		25
アイシン精機	1		17		18
中部電力	2		15		17
豊田自動織機			17		17
トヨタ紡織	4		11		15
トヨタ車体	5		9		14
三菱電機			13		13
三菱電機メカトロニクスソフトウェア	2		11		13
パナソニック			12		12
アイシン・エイ・ダブリュ	3		7		10
東海理化電機製作所	1		8	1	10
ブラザー工業			10		10
村田製作所	1		9		10
マキタ	1		8		9
ヤマハ発動機	1		8		9
リンナイ	1		8		9
アドヴィックス	1		7		8
豊田合成	2		5	1	8
トヨタシステムズ	3		4	1	8
オークマ	1		6		7
東邦ガス			7		7
日本特殊陶業			7		7
川崎重工業	1		5		6
竹中工務店	4		2		6
デンソーテクノ	3		3		6
東海旅客鉄道			6		6
日本製鉄			6		6
アビームシステムズ	3		2		5
エヌ・ティ・ティ・データ東海	2		3		5
エヌ・ティ・ティ・ドコモ	1		4		5
京セラ	1		4		5
島津製作所			5		5
積水ハウス	4		1		5
大成建設	1		4		5
日本ガイシ			5		5
パナソニックエコシステムズ	1		4		5
パロマ	1		4		5
FUJI			5		5
本田技研工業	1		4		5
愛三工業	2		2		4
イビデン	3		1		4
NTN			4		4
鹿島建設	3		1		4
ジェイテクト	1		3		4
清水建設	2		2		4
住友電装	2		2		4
大同特殊鋼			4		4
大和ハウス工業	2		2		4
デンソーテン			4		4

就 職 先	出 身				合 計
	学 部		大 学 院		
	第一部	第二部	前期課程	後期課程	
東芝メモリ			4		4
中日本高速道路			4		4
ニッセイ	4				4
ノリタケカンパニーリミテド			4		4
日立製作所			4		4
三菱自動車工業	2		2		4
ヤマザキマザック			4		4
LIXIL			4		4
アイヴィス	1		2		3
アイカ工業			3		3
愛知製鋼			3		3
朝日インテック	1		2		3
アドマテックス			3		3
大林組	1		2		3
オービック	3				3
サンディスク			3		3
サン電子	1		2		3
JSR			3		3
JFE スチール			3		3
セイコーエプソン			3		3
ダイキン工業	1		2		3
嵯屋	1		2		3
東亜合成			3		3
東レ			3		3
東レエンジニアリング			3		3
トヨタ自動車研究開発センター（中国）			3		3
トヨタホーム	3				3
ナプテスコ	1		2		3
西日本電信電話	2		1		3
日本車輛製造			3		3
ポリプラスチックス			3		3
三菱重工業			3		3
美濃窯業	1		2		3
青山製作所	1	1			2
AZAPA	2				2
旭硝子			2		2
生方製作所	2				2
エヌ・ティ・ティ・データ	1		1		2
オムロン			2		2
オリエンタルコンサルタンツ	1		1		2
コスモ石油			2		2
コマツ製作所			2		2
小松製作所			2		2
CKD	1		1		2
JXTG エネルギー			1	1	2
JFE エンジニアリング			2		2
住友理工			2		2
住友林業	1		1		2
大同メタル工業	1		1		2
竹本油脂			2		2
ダリヤ	1		1		2
中電シーティーアイ	2				2
中菱エンジニアリング			2		2
TIS	1		1		2
DMG 森精機			2		2
TDK			2		2
デンソーウェーブ			2		2
東ソー			2		2
TOTO			2		2
トヨタテクニカルディベロップメント	1		1		2
豊田ハイシステム	1		1		2
名古屋鉄道			2		2
日油			2		2
日星電気			2		2
日本コーンスターチ			2		2
日本電産	1		1		2

就 職 先	出 身				合 計
	学 部		大 学 院		
	第一部	第二部	前期課程	後期課程	
パイロットインキ	1		1		2
浜松ホトニクス			2		2
林テレンプ			2		2
日立建機	2				2
富士通			2		2
富士電機			2		2
ホーユー			2		2
ホシザキ	1		1		2
MARUWA			2		2
三井住友建設			2		2
三井ホーム			2		2
三菱ケミカル			2		2
ヤフー			2		2
ヤンマー			2		2
吉野石膏	1	1			2
ローム			2		2
計	120	2	513	5	640

教育・研究機関（全て）

就 職 先	出 身				合 計
	学 部		大 学 院		
	第一部	第二部	前期課程	後期課程	
名古屋大学				2	2
Rowan University				1	1
the University of Nottingham Ningbo China				1	1
産業技術総合研究所				1	1
台湾国立防災科学研究所				1	1
東京理科大学				1	1
名古屋工業大学			1		1
蘭州工業学院				1	1
計	0	0	1	8	9

官公庁（全て）

就 職 先	出 身				合 計
	学 部		大 学 院		
	第一部	第二部	前期課程	後期課程	
愛知県	5	1	5		11
名古屋市	8				8
豊田市	4		1		5
国土交通省中部地方整備局	3				3
一宮市	2				2
大阪府			1		1
各務原市議会議員			1		1
春日井市	1				1
国土交通省			1		
滋賀県			1		1
静岡県	1				1
東京都			1		1
豊橋市	1				1
半田市			1		1
枚方市	1				1
福井県	1				1
三重県			1		1
和歌山県			1		1
計	27	1	14	0	41

非営利法人（全て）

就 職 先	出 身				合 計
	学 部		大 学 院		
	第一部	第二部	前期課程	後期課程	
愛知ネット			2		2
神奈川芸術文化財団	1				1
計	1	0	2	0	3

外国人留学生数

■外国人留学生数一覧（国・地域別）

区 分 国・地域	国費等外国人留学生						私費外国人留学生														計									
							外国政府派遣等留学生						その他						短期留学生											
	学 部 生	学 部 研 究 生	大学院		日 本 語 研 修 生	計	学 部 生	学 部 研 究 生	大学院		学 部 生	学 部 研 究 生	大学院		科 目 等 履 修 生	学 部 生	大 学 院	計	学 部 生	※学 部研 究生 等	大学院		日 本 語 研 修 生	科 目 等 履 修 生	総 計					
			博 士 前 期	研 究 生 後 期					博 士 前 期	研 究 生 後 期			博 士 前 期	研 究 生 後 期							博 士 前 期	研 究 生 後 期				博 士 前 期	研 究 生 後 期	博 士 前 期	研 究 生 後 期	
アフガニスタン				3		3																	3				3			
イ ラ ン			1 (1)			1 (1)								1 (1)				1 (1)			1 (1)	1 (1)					2 (2)			
イ ン ド	1		2 (1)	1 (1)		4 (1)								1 (3)	11 (3)				12 (3)	1		3 (4)	12 (4)				16 (4)			
インドネシア														2 (1)	1 (1)				3 (1)			2 (1)	1 (1)				3 (1)			
ウ ガ ン ダ														1					1			1					1			
エ ジ プ ト				2 (1)		2 (1)				2		2 (0)						1 (1)	1 (1)				4 (1)	1 (1)			5 (2)			
エチオピア														1					1			1					1			
ギ リ シ ャ	1					1														1							1			
コ ン ゴ 民 主 共 和 国															1				1				1				1			
ス ー ダ ン			1			1								1					1			2					2			
ス ペ イ ン																	1	1					1				1			
スリランカ	1 (1)					1 (1)														1 (1)							1 (1)			
セ ネ ガ ル														1				1			1						1			
ト ー ゴ														1					1			1					1			
ト ル コ															1 (1)				1 (1)				1 (1)				1 (1)			
ネ バ ー ル														2				2				2					2			
バキスタン			1	1		2															1	1					2			
バ ン グ ラ デ シ ュ			2	2		4								2				2			4	2					6			
フィジー														1 (1)					1 (1)			1 (1)					1 (1)			
ブラジル				1 (1)		1 (1)									1				1				2 (1)				2 (1)			
フ ラ ン ス														1				3	4				1	3			4			
ベトナム			2 (2)	2		4 (2)						16 (2)		7 (2)	2				25 (4)	16 (2)		9 (4)	4				29 (6)			
マレーシア			1 (1)			1 (1)	22 (8)				22 (8)								22 (8)			1 (1)					23 (9)			
モーリタニア					1 (1)	1 (1)																		1 (1)			1 (1)			
モ ロ ッ コ														1 (1)					1 (1)			1 (1)					1 (1)			
モンゴル												17 (9)		1 (1)					18 (10)	17 (9)		1 (1)					18 (10)			
韓 国	12 (2)		1			13 (2)	12				12	12 (1)		3	1		1		17 (1)	36 (3)	1	4	1				42 (3)			
台 湾																	2		2		2						2			
中 国												24 (8)	64 (25)	73 (26)	19 (5)	1				181 (64)	24 (8)	64 (25)	73 (26)	19 (5)	1			181 (64)		
計	15 (3)	0 (0)	11 (4)	12 (3)	0 (0)	1 (1)	39 (11)	34 (8)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	0 (0)	36 (8)	69 (20)	64 (25)	96 (31)	41 (11)	1 (0)	0 (0)	3 (0)	5 (1)	279 (88)	118 (31)	67 (25)	107 (35)	55 (14)	6 (1)	1 (1)	0 (0)	354 (107)

注1：（ ）内は、女子を内数で示す。

注2：国費等外国人留学生には日韓共同理工系学部留学生12名、外国政府派遣等留学生には日韓共同理工系学部留学生12名を含む。

注3：「研究生等」には、「短期留学生」（主として大学間交流協定に基づいて母国の大学に在籍し、必ずしも学位取得を目的としない、概ね1学年以内の1学期間又は複数学期教育を受ける留学生）を含む。



学術交流協定締結状況

大学間学術交流協定数	67
部局間学術交流協定数	17
合計国・地域数	32

学生交流について：●授業料等不徴収の条項あり
○授業料等不徴収の条項なし

	国・地域	大学名／機関名（本学締結部局）	学生交流	締結年
アジア	アフガニスタン	カブール大学	○	2005
	バングラデシュ	バングラデシュ工科大学	○	1999
	中国	陝西科技大学	○	1990
		清華大学	●	2008
		西安交通大学	●	1996
		浙江大学	○	1997
		北京理工大学	○	1997
		北京化工大学	●	2005
		北京化工大学炭素繊維と複合材料研究所（本学先進セラミックス研究センター）	●	2007
		同濟大学	●	2006
		中国科学院半導体研究所	○	2007
		復旦大学	○	2007
		中山大学	○	2008
		四川省社会科学院	○	2008
		厦門大学材料学院（本学物理工学専攻）	○	2009
		大連東軟信息学院	●	2010
	インド	長春大学図書館（本学図書館）	○	1995
		吉林大学図書館（本学図書館）	○	1995
		アナ大学	●	1996
		インド工科大学ボンベイ校	○	2002
		中央ガラス・セラミックス研究所	○	2005
		デリー大学	○	2007
	インドネシア	インド国立科学研究所	●	2009
		鉱物および材料工学研究所科学および工業研究カウンスル（本学先進セラミックス研究センター）	○	2013
	韓国	ソナ工業大学フォトニクス・ナノテクノロジーセンター（本学電気・機械工学専攻）	○	2014
		ウタヤナ大学	○	2003
	マレーシア	漢陽大学校	●	2003
		ソウル国立大学電気情報工学専攻（本学情報工学専攻）	○	2005
		ソウル国立大学経営工学専攻（本学社会工学専攻）	○	2015
		明知大学校	●	2010
	ミャンマー	マラ工科大学	●	2005
		マレーシア工科大学	●	2006
	オーストラリア	ツン・フセイン・オン・マレーシア大学	●	2017
		ヤンゴン・コンピューター大学	●	2018
	フィリピン	サルタンカブス大学	○	2003
		ボホール島州立大学	●	2016
	タイ	タマサート大学	●	2004
		泰日工業大学	●	2007
		チュラロンコン大学	●	2008
		モンクット王工科大学ラートクラバン校	●	2018
	台湾	国立台北科技大学	●	2005
	トルコ	ドゥムルプナル大学冶金・マテリアル工学専攻（本学生命・応用化学専攻）	○	2019
	ベトナム	ベトナム科学技術アカデミー物質科学研究所	○	2008
		ハノイ工科大学	●	2008
オセアニア	オーストラリア	クイーンズランド大学社会工学専攻（本学社会工学専攻）	○	2016
	ニュージーランド	ウーロンゴン大学	●	2017
	ニュージーランド	オークランド工科大学	○	2018
ヨーロッパ	オーストリア	ウィーン工科大学	●	2014
	ブルガリア	ペリコ・タルノボ大学	●	2013
	フィンランド	アールト大学	○	2003
	フランス	リモージュ大学、国立セラミックス工学大学院	●	2003
		リール国立化学大学院	●	2003
		EFREI/ESIGETEL	●	2015
		ESTP	●	2009
		ESIGELEC	●	2010
		ボワティエ大学	●	2010
	ドイツ	ケムニッツ工科大学電気情報工学部（本学情報工学専攻）	○	2006
		エアランゲン・ニュルンベルク大学	●	2011
		ウルム大学	●	2019
		フリードリヒ・シラー大学イェナ化学・地球科学専攻（本学生命・応用科学専攻）	○	2019
	イタリア	ミラノ大学	○	2004
		バドバ大学経営工学部（本学情報工学専攻）	○	2011
		ザレルノ大学	●	2018
	ノルウェー	アグデル大学理工学専攻（本学電気・機械工学専攻）	○	2017
	ポーランド	ボズナン工科大学	●	2018
		ウッチ工科大学	●	2018
	ルーマニア	ヤシ「アレクサンドルーイオンクザ」大学	○	1999
		ヤシ工科大学	○	2018
	ロシア	メンデレーフ・ロシア化学技術大学	●	1991
	スペイン	バレンシア州立工芸大学	●	2000
		アルカラ大学	●	2015
		バルセロナ自治大学	○	2016
		バレンシア大学	○	2019
	スウェーデン	ルレオ工科大学	●	2013
	スイス	スイス連邦材料試験研究所（本学先進セラミックス研究センター）	○	2016
		インペリアル・カレッジ・ロンドン	○	1991
	英国	リーズ大学	○	1991
		リーズ大学粒子科学工学研究所（本学先進セラミックス研究センター）	○	2007
		シェフィールド大学	○	2005
		シェフィールド大学	○	2005
北米	アメリカ合衆国	アーカンソー大学フォートスミス校	○	2007
		クレムソン大学	○	2008
		フロリダ大学	○	2010
南米	ブラジル	ブラジリア大学	●	1999
		パラナ工業大学電気情報工学専攻	○	2014

平成30年度科学研究費助成事業

件数	金額（千円）
210	598,480

平成30年度知的財産収入

内 訳	金額（千円）
特許権等	54,354
著作権	596
ノウハウ	6,246
有体物	14,760
合 計	75,956

平成30年度財政状況（暫定）

収入（単位：百万円）

区 分	決算額
運営費交付金	4,715
自己収入	3,689
学生納付金収入	3,356
雑収入	332
外部資金関係収入 ^{注2}	2,391
施設整備費補助金等	113
施設整備費補助金	93
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	20
前年度からの繰越金 ^{注3}	259
計	11,167

支出（単位：百万円）

区 分	決算額
人件費	6,040
物件費	2,218
教育経費	723
研究経費	588
教育研究支援経費	380
一般管理費	527
外部資金関係事業費	2,299
施設整備費補助金等事業	113
翌年度への繰越金	498
計	11,167 ^{注1}

注1：単位未満の四捨五入により合計額が一致しない場合がある。

注2：外部資金関係収入については、〈外部資金関係内訳〉を参照。

注3：前年度からの繰越金については、平成30年度支出分のみを記載。

〈外部資金関係内訳〉

（単位：百万円）

区 分	件 数	決算額
寄附金	632	319
受託研究費	105	936
共同研究費	303	775
受託事業費	16	133
ぎふ技術革新センター運営協議会共同研究助成事業助成金	1	1
科学技術人材育成費補助金	1	19
科学技術人材育成費補助金（卓越研究員事業）	1	2
研究拠点形成費等補助金	1	20
国立大学法人機能強化推進補助金	1	30
住宅市場整備推進等事業費補助金	1	3
中小企業経営支援等対策費補助金	6	14
間接経費（科学研究費補助金等）	290	140
計	1,358	2,391 ^{注1}

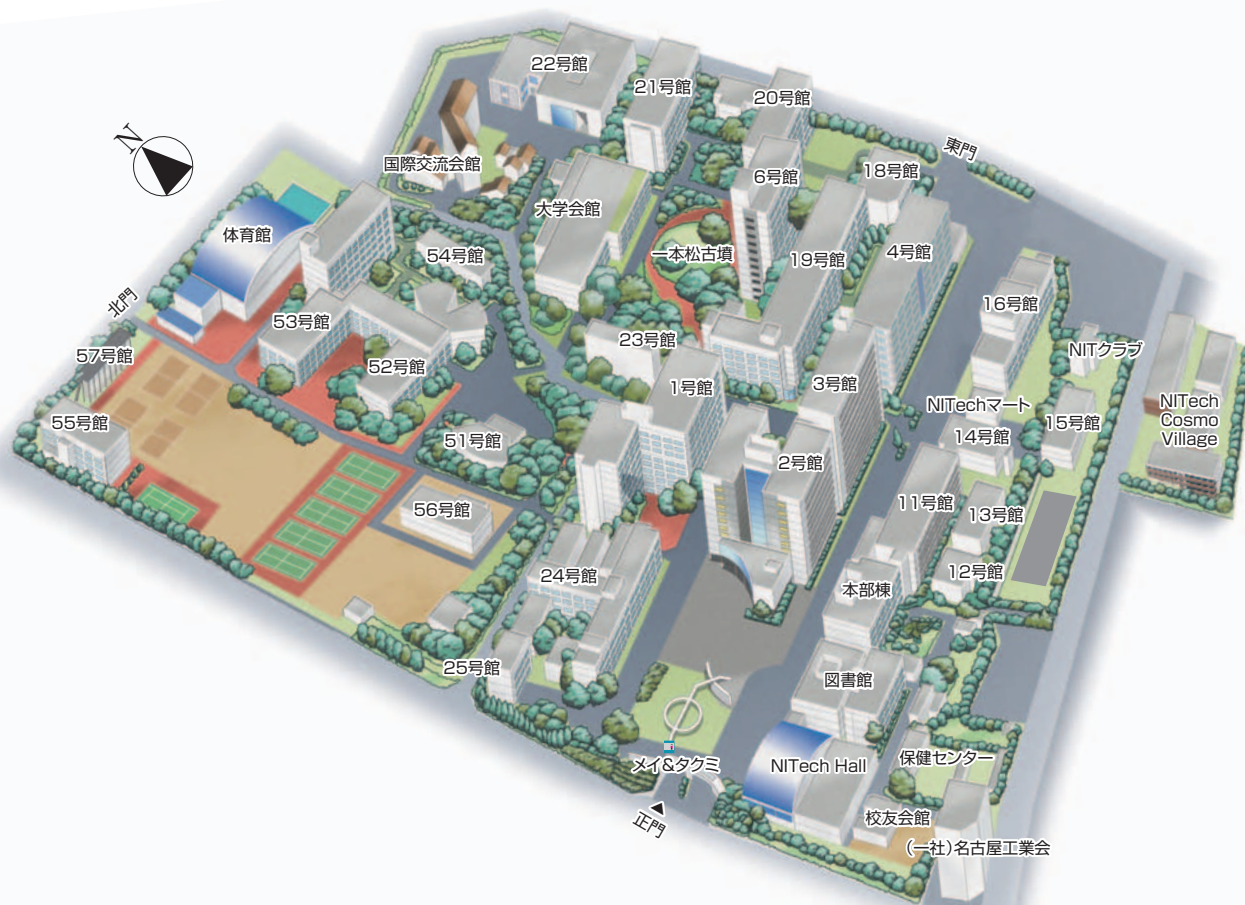
注1：単位未満の四捨五入により合計額が一致しない場合がある。

注2：件数及び決算額については、平成30年度決算資料に基づく。

区 分		建物 (単位: m ²)	土地 (単位: m ²)	所 在 地
御器所団地	専門学科・共通教育等	105,553	138,664	〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町 電話 052 (735) 5000
	本部棟	3,299		
	産学官金連携機構	3,428		
	フロンティア研究院	303		
	図書館	5,577		
	全学共通支援組織	1,881		
	教育推進組織	1,409		
	学術推進組織	2,944		
	研究人財高度化組織	232		
	NITech Hall	1,667		
	体育館	2,479		
	55号館 (課外活動共用施設)	1,729		
	57号館 (課外活動施設)	485		
	大学会館	4,478		
	国際交流会館	2,155		
	NITクラブ	264		
	校友会館	589		
	NITech マート	303		
	その他	2,103		
小 計		140,878	138,664	
千種団地	千種運動場	412	34,439	〒464-0083 名古屋市千種区北千種二丁目512-1 電話 052 (711) 2742
	学生寮 (恒和寮)	2,933	7,336	
	小 計	3,345	41,775	
先進セラミックス研究センター		2,754	20,943	〒507-0071 多治見市旭ヶ丘十丁目6-29 電話 0572 (27) 6811
多治見駅前地区		*a 1,067		〒507-0033 多治見市本町三丁目101-1 (クリスタルプラザ多治見4階) 電話 0572 (24) 8110
蒲郡艇庫		*a 224		〒443-0014 蒲郡市海陽町1-7 (蒲郡市営共同艇庫 B-1)
庄内川艇庫		376	635	〒454-0944 名古屋市中川区大蟬螂町字西流358-3
志段味課外活動施設		246	*a 7,683 87	〒463-0002 名古屋市守山区大字中志段味字南原2678 電話 052 (736) 1322
木曽駒高原セミナーハウス		378	*a 4,628	〒397-0002 長野県木曽郡木曽町新開129-10 電話 0264 (23) 7623
狭間団地 (ナイトック・コスモ・ヴィレッジ)		3,803	3,955	〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町27
合 計		151,780 *a 1,291	213,655 *a 4,715	

*a: 借上げ数量を、外数で示す。

学内配置図



クラブ・サークル

体育系	
1	陸上競技
2	水泳
3	硬式野球
4	準硬式野球
5	硬式庭球部
6	ソフトテニス
7	バスケットボール
8	男子バレーボール
9	女子バレーボール
10	卓球
11	バドミントン
12	サッカー
13	ラグビー
14	アメリカンフットボール
15	アイスホッケー
16	ハンドボール
17	柔道
18	剣道
19	体操
20	馬術
21	空手道
22	弓道

23	合気道
24	ゴルフ
25	ボート
26	ヨット
27	スキー
28	ライフル射撃
29	航空
30	自動車
31	ワンダーフォーゲル
32	ビリヤード
33	日本拳法部

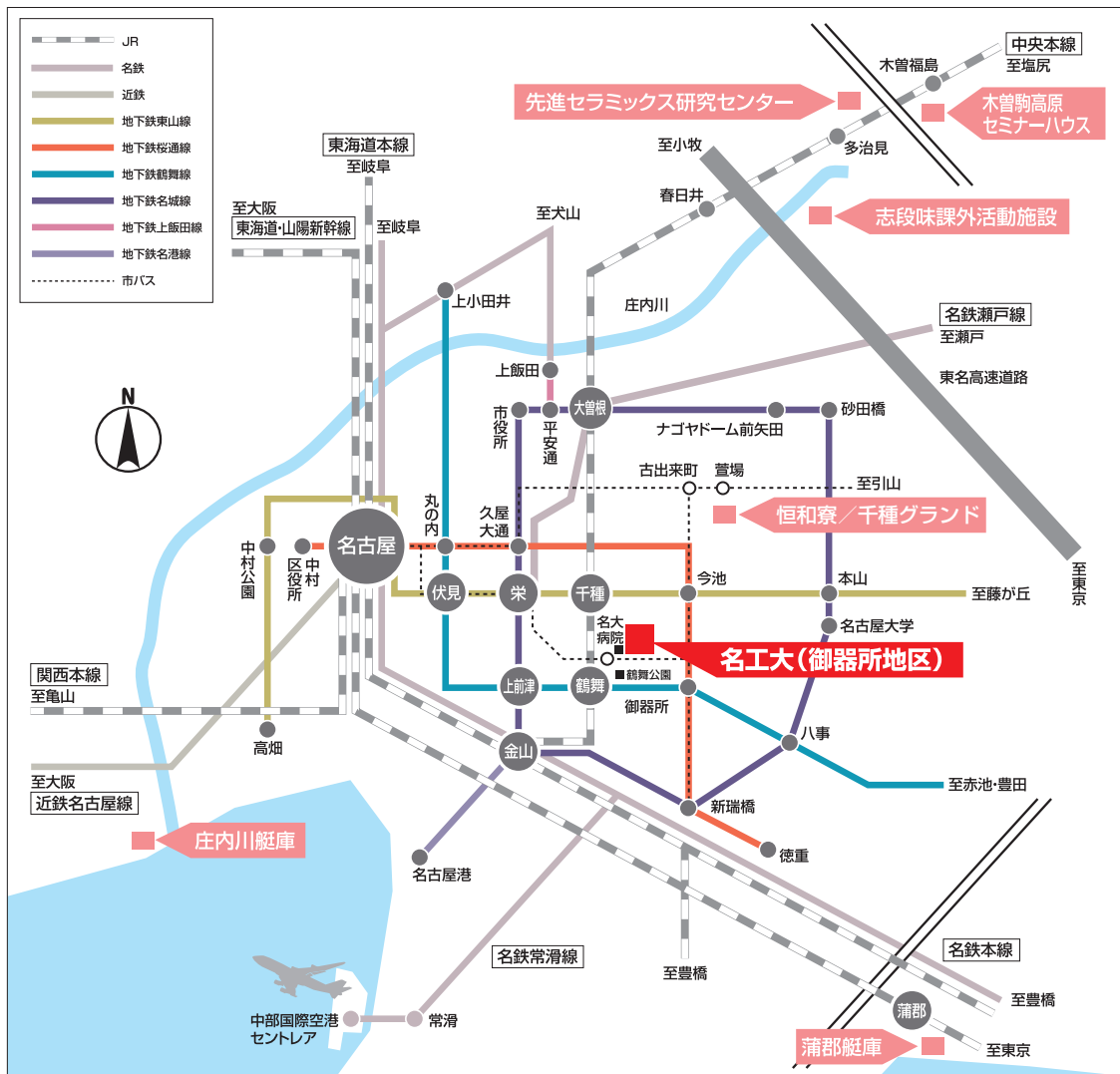
文化系	
1	管弦楽団
2	ギターアンサンブル
3	A. F. Q. (軽音楽)
4	PMC 祭ん (ライブ)
5	合唱団
6	E. S. S. (英語研究)
7	美術部
8	写真研究部
9	将棋部
10	囲碁部

11	鉄道研究会
12	ソーラーカー部
13	コンピュータ倶楽部
14	ロボコン工房
15	Seminar (討論)
16	Dance Freaks Community (DFC)
17	名古屋工業大学新聞部
18	マジックサークル NIT
19	名古屋工業大学吹奏楽団
20	名工大ボランティア部
21	NIT FILMS (映像・写真)
22	環境委員会 NEP
23	天文部
24	人力飛行機研究会 NIEWS
25	COde (プログラミング)
26	漫画研究部
27	Grazie!! (アカベラ)

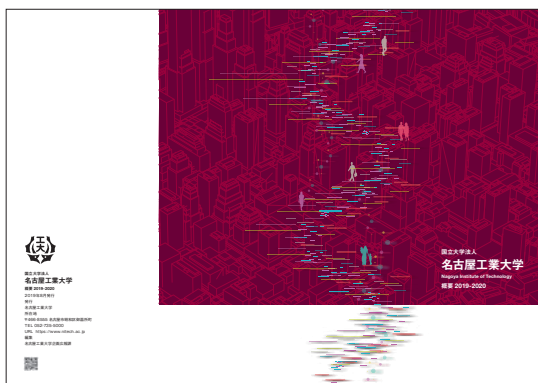
同好会	
1	Blue Grass (テニス)
2	シミュレーションゲーム友の会 (SLG)
3	V. I. C (バレーボール)
4	チーム火曜日 (軟式野球)

5	名工大ポケモンサークル Nit Poke
6	TABLE STUDIO (カードゲーム)
7	NIT SW (釣り)
8	Chuck (軟式野球)
9	彩綾~SAYA~(学内女子学生の支援)
10	NITJ (サッカー)
11	MJ (競技麻雀)
12	作曲サークル
13	MKC (バンド)
14	学生山岳同人 鶴
15	NITIA (名古屋工業大学国際協会)
16	Smiling (基礎スキー、スノーボード)
17	ムービズム (映像研究)
18	NIT PACOD (ダンス)
19	中国留学生学生会
20	DieE (テーブルトークロールインゲーム)
21	劇団「老若男女未来学園」
22	NaSH (アトレプレナーマインドの醸成)
23	オリエンテーリング同好会
24	名工気象学研究サークル

アクセスマップ



JR 東海	名古屋駅	約6分 (中央本線)	鶴舞駅下車名大病院口東へ500m
地下鉄	名古屋駅	約2分 (東山線)	伏見
		約6分 (鶴舞線)	鶴舞駅下車4番出口東へ500m
		のりかえ	
市バス	栄	約14分 (栄18番系統妙見町行き)	名大病院下車東へ200m



■ 表紙デザインについて

優秀な留学生の獲得や日本人学生の海外派遣拠点の開拓、女性研究者支援体制の充実や女子学生比率の拡大、企業人材との交流の活性化など、多様な人材の交流が育むダイバーシティキャンパスを目指す名古屋工業大学。そのダイバーシティキャンパスを象徴するキーワードである「多様性」を、様々な人が行き交うシルエットや背景にある街並に情報やコミュニケーションをイメージした模様などを組み合わせ表現しています。



国立大学法人

名古屋工業大学

概要 2019-2020

2019年8月発行

発行

名古屋工業大学

所在地

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL 052-735-5000

URL <https://www.nitech.ac.jp>

編集

名古屋工業大学企画広報課

